

アンケート結果に見る大和市障がい福祉の特徴と課題

目次

| | |
|--|----|
| 当事者アンケート..... | 2 |
| 当事者の概要..... | 2 |
| 地域移行・地域での生活..... | 6 |
| 悩み事、困ったことと相談機能..... | 11 |
| 障がい者の権利擁護..... | 14 |
| 災害時の避難(防災・減災)..... | 15 |
| 就労..... | 18 |
| 余暇支援・外出支援..... | 20 |
| 障がい児支援—保護者の回答のみのため、サンプル数が少ない点に留意が必要..... | 23 |
| 医療ケア..... | 27 |
| 精神医療..... | 28 |
| 日常生活..... | 31 |
| 介助・支援の悩み..... | 32 |
| 大和市障害者自立支援センター..... | 33 |
| 暮らしの満足度..... | 35 |
| 成年後見制度..... | 36 |
| 一般市民アンケート..... | 37 |
| 回答数の属性..... | 37 |
| 障がい児や障がい者の実態や取組..... | 38 |
| 障がい者を対象とした福祉の基本的な考え方..... | 40 |
| あなたと障がいのある人との交流等について..... | 43 |
| 障がいのある人に対する地域社会..... | 45 |
| 障がいのある人に対する支援について..... | 46 |
| 障がいのある人の権利擁護について..... | 48 |

大和市障がい者福祉計画策定に向けた意識調査 結果の概要

発送数・回収数

| | 発送 | 回収 | 回収率 (%) |
|------|-------|-------|---------|
| 当事者 | 2,300 | 1,234 | 53.6 |
| 一般市民 | 200 | 79 | 39.5 |

調査方法 : 郵送調査

回収期間 : 平成26年8月8日～8月25日(18日間)

当事者アンケート

当事者の概要

回答数の内訳(当事者)

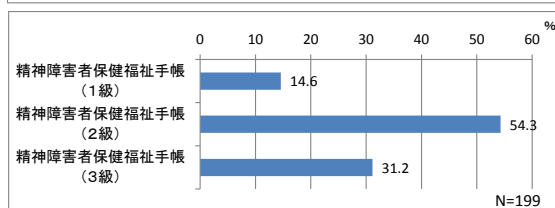
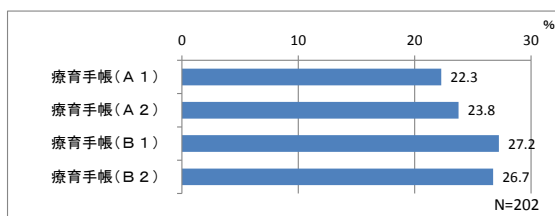
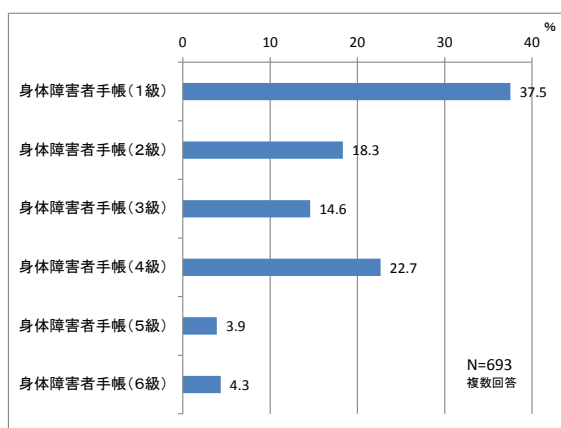
| | 回答数 | 割合 (%) |
|------------|-------|--------|
| 全体 | 1,234 | 100.0 |
| 身体障がい | 693 | 56.2 |
| 知的障がい | 202 | 16.4 |
| 精神障がい | 199 | 16.1 |
| 手帳なし(含無回答) | 191 | 15.5 |

注)手帳保持者ベース、複数回答(重複障害)である

注)「手帳なし」は概ね「自立支援医療受給者証」による精神通院医療の受診者と見ることができる

障害者手帳の手帳種別と程度

身体障がいは1級が37.5%、知的障がいはB1が27.2%、精神障がいは2級が54.3%



障がいの重複

重複障がいは全体の4.2%

| | | | | |
|----------|-------|-------------|-------|-----------|
| 身体障がいと重複 | 知的障がい | 5.8% (40人) | 精神障がい | 1.0% (7人) |
| 知的障がいと重複 | 身体障がい | 19.8% (40人) | 精神障がい | 2.5% (5人) |
| 精神障がいと重複 | 身体障がい | 3.5% (7人) | 知的障がい | 2.5% (5人) |

障がい支援区分

障害者総合支援法に基づく障がい支援区分を受けているのは知的障がいでは 44.6%だが、身体障がいでは 14.9%、精神障がいでは 8.0%、手帳なしでは 2.0%と少ない

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 身体障がい | 受けている 14.9% |
| 知的障がい | 受けている 44.6% |
| 精神障がい | 受けている 8.0% |
| 手帳なし（含無回答） | 受けている 2.0% 受けてない 46.1%（無回答 51.2%） |

難病・発達障害等の認定・診断と必要な支援

障害者総合支援法で新たに障がいと認定された難病・発達障害等の認定あるいは診断を受けている人は、知的障がいでは 48.2%いるが、身体障がいでは 17.6%、精神障がいでは 15.1%、手帳なしでは 6.8%である。

今回のアンケート結果において、知的障がいでは認定・診断が多いのは、精神障害、発達遅滞を発達障害と同意に捉えられている可能性があることなどのためと推察される。

難病・発達障害等の認定あるいは診断を受けている人で、一番必要だと思う支援は、いずれの障がいにおいても「経済的な負担の軽減」が第 1 位であり、身体障がいでは「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が第 2 位、知的障がい、精神障がい、手帳なしでは「相談対応の充実」が第 2 位となっており、より充実した相談体制が求められている。

| | 合計 | 問9 認定あるいは診断 | | | | |
|-------|------|-------------|------|---------|------------|------|
| | | 難病 | 発達障害 | 高次脳機能障害 | いずれも受けていない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 8.2 | 9.6 | 2.8 | 64.2 | 15.7 |
| 身体障がい | 693 | 13.1 | 1.2 | 3.5 | 67.2 | 15.2 |
| 知的障がい | 202 | 2.5 | 45.0 | 1.5 | 40.1 | 11.9 |
| 精神障がい | 199 | 2.0 | 9.5 | 4.0 | 69.3 | 15.6 |
| 手帳なし | 191 | 2.6 | 4.7 | 0.0 | 71.2 | 22.0 |

| | 合計 | 問10 一番必要だと思う支援 | | | | | | | 無回答 |
|-------|-----|----------------------|---------------------|-----------|----------|---------|------|------|------|
| | | 必要な在宅サービスが適切に利用できること | 在宅で医療ケアなどが適切に得られること | 経済的な負担の軽減 | 相談対応等の充実 | 地域住民の理解 | その他 | 特になし | |
| 全体 | 248 | 16.9 | 4.0 | 27.0 | 15.3 | 9.7 | 4.0 | 14.1 | 8.9 |
| 身体障がい | 122 | 24.6 | 6.6 | 24.6 | 9.8 | 0.8 | 4.1 | 20.5 | 9.0 |
| 知的障がい | 97 | 10.3 | 2.1 | 22.7 | 21.6 | 21.6 | 4.1 | 7.2 | 10.3 |
| 精神障がい | 30 | 6.7 | 6.7 | 43.3 | 13.3 | 6.7 | 10.0 | 6.7 | 6.7 |
| 手帳なし | 13 | 7.7 | 0.0 | 46.2 | 15.4 | 0.0 | 0.0 | 15.4 | 15.4 |

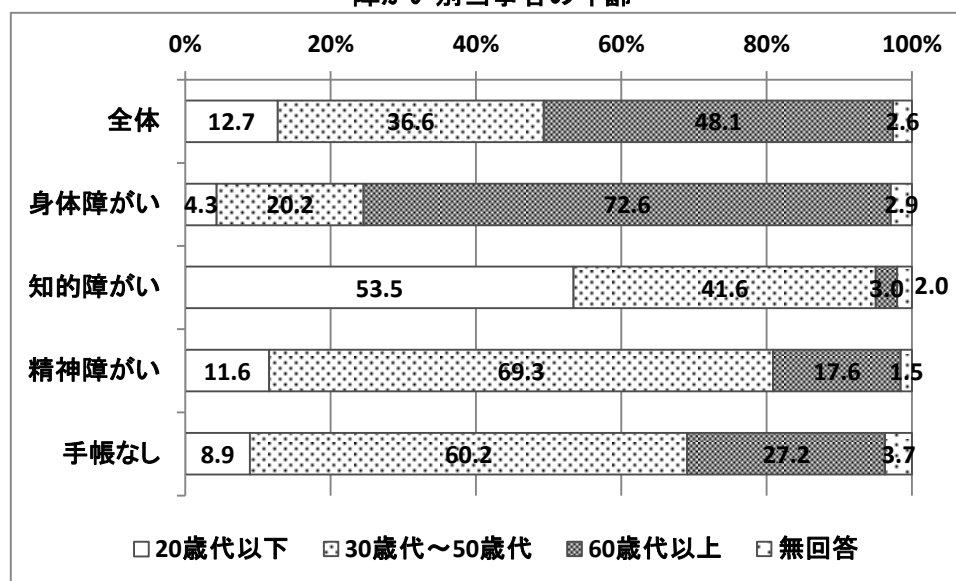
当事者の年齢構成と介助者の年齢構成

当事者では身体障がい者の72.6%が60歳代以上であるが、知的障がいでは半数は20歳代以下、精神障害では7割が30歳代～50歳代である。一方介助者の年齢は身体障害、精神障害で60歳代以上が半数以上となっており、介助する側の高齢化が顕著であることが示唆される。

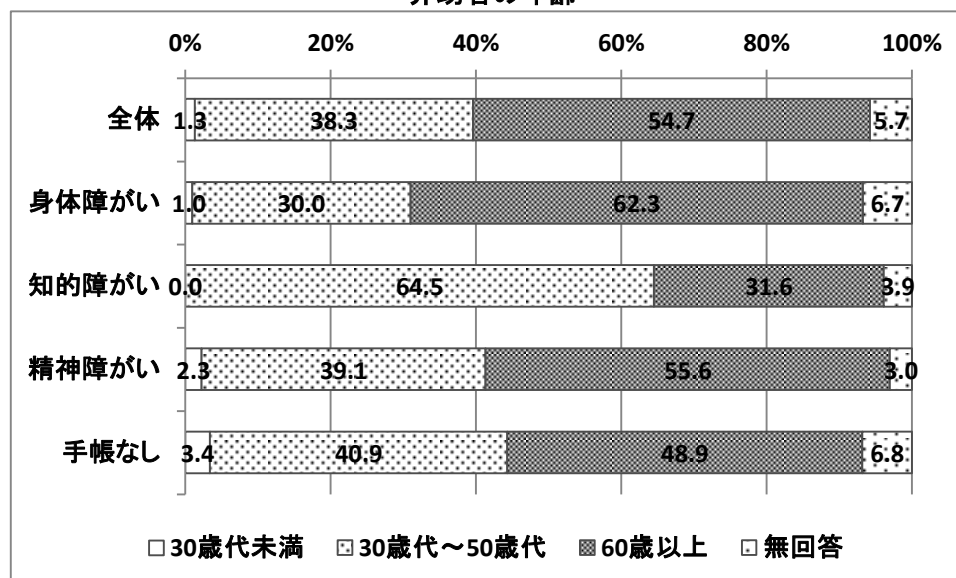
◇身体障がいでは、「60歳代以上」(72.6%)、知的障がいでは、「20歳代以下」(53.5%)、精神障がいでは、「30歳代～50歳代」69.3%、手帳なしでは、「30歳代～50歳代」(60.2%)が最も多い。

◇介助者の年齢では身体障がい、精神障がいでは60歳代以上が5割を超えており、手帳なしでは48.9%、知的障がいでは31.6%が60歳代以上である。

障がい別当事者の年齢



介助者の年齢



地域移行・地域での生活

現在の生活の場所と同居の家族、今後の希望する暮らし方

障がい者の 87.8%は自宅で生活し、身体障がい、手帳なしでは「配偶者」、知的障がい、精神障がいでは「父母」と同居している割合が高い
 知的障がいグループホームで暮らしている人は 6.9%、精神障がい入院している人は 4.5%である
 一方、今後の希望する暮らし方では、いずれの障がいも「現在の家族と一緒に自宅で暮らしたい」の割合は 4 割～5 割であり、知的障がい者では「グループホームで暮らしたい」12.4%、精神障がいでは「一般の住宅で 1 人で暮らしたい」12.1%の割合がやや高くなっている。身体障がいでは「特にない」12.4%の割合がやや高い。
 入所施設を希望する割合は全体で 2.2%と少なく、地域での生活を希望している。

| | 合計 | 問 4 生活している場所 | | | | | |
|-------|------|--------------|-----------|----------------|------------|-----|-----|
| | | 自宅で暮らしている | 施設で暮らしている | グループホームで暮らしている | 病院等に入院している | その他 | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 87.8 | 3.7 | 1.9 | 1.7 | 3.5 | 1.4 |
| 身体障がい | 693 | 88.6 | 4.2 | 1.0 | 1.4 | 3.9 | 0.9 |
| 知的障がい | 202 | 82.7 | 6.9 | 6.9 | 1.5 | 0.5 | 1.5 |
| 精神障がい | 199 | 87.9 | 0.5 | 2.5 | 4.5 | 4.0 | 0.5 |
| 手帳なし | 191 | 88.5 | 2.1 | 0.5 | 1.0 | 3.7 | 4.2 |

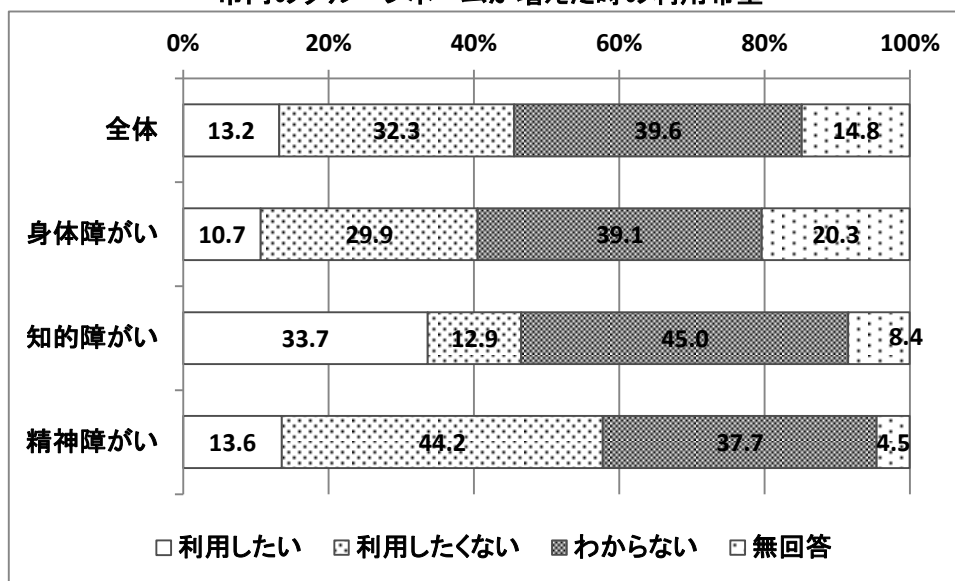


| | 合計 | 問42 今後、希望する暮らし方 | | | | | | | | | |
|-------|------|-------------------|-----------------|-----------------|---------------|------------------------|----------------|-----|-------|------|------|
| | | 現在の家族と一緒に自宅で暮らしたい | 結婚して新たな家族と暮らしたい | 気のある知人や友人と暮らしたい | グループホームで暮らしたい | 障がいがある人が入所する施設などで暮らしたい | 一般の住宅で一人で暮らしたい | その他 | わからない | 特にない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 45.9 | 5.3 | 0.9 | 2.9 | 2.2 | 7.2 | 2.2 | 10.7 | 9.2 | 13.5 |
| 身体障がい | 693 | 47.5 | 2.7 | 0.4 | 1.6 | 2.6 | 5.3 | 2.3 | 7.8 | 12.4 | 17.3 |
| 知的障がい | 202 | 43.6 | 3.0 | 0.5 | 12.4 | 6.4 | 3.0 | 1.5 | 17.3 | 2.5 | 9.9 |
| 精神障がい | 199 | 42.7 | 14.1 | 2.0 | 3.5 | 0.0 | 12.1 | 3.0 | 12.6 | 3.5 | 6.5 |
| 手帳なし | 191 | 43.5 | 8.4 | 1.6 | 0.0 | 0.5 | 12.0 | 1.6 | 12.0 | 8.4 | 12.0 |

グループホームの利用意向と利用しやすくするための支援

市内のグループホームが増えた時の利用希望は、全体に「わからない」39.6%が多く、知的障がいでは「利用したい」33.7%、精神障がいでは「利用したくない」44.2%が多い。グループホームを利用しやすくするための支援では、全体的に「家賃などの経済的支援がある」23.4%が多いが、知的障がいでは「グループホームの短期的な宿泊体験ができる」22.8%、精神障がいでは「家賃などの経済的支援がある」34.2%の割合がやや高い。グループホームの増設、利用促進に向けては、グループホームの見学、体験などの周知の機会を持つことが求められる。

市内のグループホームが増えた時の利用希望



グループホームを利用しやすくするための支援

| | 合計 | 問44 グループホームを利用しやすくするための支援 | | | | | |
|-------|------|----------------------------|----------------------|-----------------------------|---------------|-----|------|
| | | グループホームの見学会等、詳しい情報提供の機会がある | グループホームの短期的な宿泊体験ができる | 現在利用している施設や病院に籍を置いたまま、利用できる | 家賃などの経済的支援がある | その他 | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 12.7 | 10.5 | 7.4 | 23.4 | 7.2 | 38.7 |
| 身体障がい | 693 | 10.8 | 7.9 | 6.3 | 20.3 | 7.2 | 47.3 |
| 知的障がい | 202 | 15.8 | 22.8 | 10.9 | 22.3 | 4.0 | 24.3 |
| 精神障がい | 199 | 13.1 | 10.6 | 8.0 | 34.2 | 9.0 | 25.1 |
| 手帳なし | 191 | 15.7 | 9.4 | 7.9 | 23.6 | 7.9 | 35.6 |

地域での生活の実現・継続に向けて必要なこと

地域での生活の実現・継続に向けて必要なことでは、いずれの障がいでも「経済的な負担の軽減」37.5%が最も多くなっているが、障がいや年齢によって求められる内容に違いが見られる

身体障がい(60歳代以上)--「ホームヘルプなどの在宅サービス」

身体障がい(50歳代以下)--「障がい者に適した住居の確保」「家族への支援」「緊急時のサポート」

知的障がい-----「日中活動の充実」「生活訓練の充実」「就労支援」「家族への支援」「緊急時のサポート」「障がいの理解」

精神障がい-----「経済的負担軽減」「相談対応の充実」「就労支援」「生活訓練の充実」「障がいの理解」

手帳なし-----「経済的負担軽減」「就労支援」

地域移行・地域生活の支援に向けては障がいの特性、年齢の特性を踏まえた施策形成が求められる。

地域での生活の実現・継続に向けて必要なこと

| | 全体 | 身体障がい- 50歳代以下 | 身体障がい- 60歳代以上 | 知的障がい | 精神障がい | 手帳なし |
|-----------------------------------|-------|------------------|------------------|-------|-------|-------|
| 合計 | 1234 | 170 | 503 | 202 | 199 | 191 |
| | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ホームヘルプなどの必要な在宅サービスが適切に利用できること | 20.1 | 22.9 | 26.2 | 14.4 | 16.1 | 13.1 |
| 通所し活動のできる日中活動の福祉サービスの充実 | 11.2 | 7.6 | 8.2 | 26.7 | 11.6 | 6.8 |
| 昼間に利用出来る作業所等や通所施設など生活訓練の充実 | 9.2 | 7.6 | 1.6 | 24.3 | 17.1 | 9.9 |
| 利用しやすい医療機関（在宅で医療ケアなどが適切に得られることなど） | 17.2 | 19.4 | 21.9 | 9.9 | 13.6 | 16.2 |
| 障がい者に適した住居の確保（住宅設備の改良など住まいのための支援） | 12.8 | 20.0 | 13.7 | 9.9 | 16.1 | 4.2 |
| 就労のための支援 | 14.7 | 18.2 | 3.2 | 25.7 | 23.1 | 22.5 |
| 経済的な負担の軽減 | 37.5 | 36.5 | 28.4 | 32.7 | 51.3 | 50.3 |
| 相談対応等の充実 | 11.8 | 10.0 | 6.0 | 13.9 | 24.1 | 13.6 |
| 家族への支援（家族へのレスパイト（一時的休息）支援など） | 11.9 | 18.2 | 8.2 | 21.8 | 11.1 | 9.4 |
| 宿泊等による地域生活体験など地域での生活を送るための訓練 | 2.1 | 3.5 | 0.6 | 5.9 | 3.5 | 0.5 |
| 緊急時等のサポートの充実 | 21.4 | 27.1 | 22.5 | 29.7 | 14.6 | 14.1 |
| 地域での障がいや病気の理解やボランティア活動の推進 | 9.2 | 11.8 | 5.4 | 14.9 | 15.1 | 9.4 |
| その他 | 3.7 | 2.4 | 3.8 | 2.0 | 7.0 | 3.7 |
| 無回答 | 22.6 | 18.8 | 32.8 | 7.9 | 9.0 | 24.1 |

通所・入所の障がい者支援事業所に望む支援内容短期入所を利用したい場所

通所・入所の障がい者支援事業所に望む支援内容では、無回答が 43.1%あり、60 歳代以上の身体障がい、手帳なしに無回答の割合が多い。無回答は通所・入所サービスを利用していない人と考えられ、残りの約 6 割は利用者であると考えられる。

支援事業所に望む支援内容では最も多かったのが「施設までの送迎サービス」19.9%で、とくに知的障がいでは 30.2%とその割合が高い。次いで「相談」が 16.3%で、とくに精神障がいでは 30.2%とその割合が高い。短期入所は全体では 7.3%であるが、知的障がいでは 15.3%と高くなっている。

通所・入所支援事業所に求められているのは「送迎サービス」と「相談」の割合が高い。

通所・入所の障がい者支援事業所に望む支援内容

| | 合計 | 問46 通所・入所の障がい者支援事業所に望む支援内容 | | | | | | 無回答 |
|--------------|------|----------------------------|-------|------|--------|------|-----|------|
| | | 施設までの送迎サービス | 一時預かり | 短期入所 | 入浴サービス | 相談 | その他 | |
| 全体 | 1234 | 19.9 | 3.7 | 7.3 | 3.2 | 16.3 | 6.6 | 43.1 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 21.8 | 5.3 | 9.4 | 1.2 | 18.8 | 4.1 | 39.4 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 18.3 | 3.4 | 6.0 | 5.0 | 8.5 | 6.6 | 52.3 |
| 知的障がい | 202 | 30.2 | 6.4 | 15.3 | 1.0 | 15.3 | 5.4 | 26.2 |
| 精神障がい | 199 | 20.1 | 3.5 | 5.5 | 3.0 | 30.2 | 9.5 | 28.1 |
| 手帳なし | 191 | 15.7 | 1.6 | 5.2 | 2.1 | 20.4 | 6.8 | 48.2 |

短期入所を利用したい場所

短期入所を利用したい場所では、無回答が 65.9%あり、とくに手帳なしに無回答が多い。無回答は短期入所の利用意向がない人と考えられ、残りの約 3~4 割は利用意向があると考えられる。

短期入所を利用したい場所で最も多かったのが「家から近い場所」20.8%で、とくに知的障がいでは 31.7%とその割合が高い。次いで「入所施設など設備の整った場所」12.6%で、とくに身体障がいの 60 歳代以上では 16.1%とその割合がやや高い。「障がい者支援事業所など知っている職員のいる通いなれた場所」は 10.9%であるが、知的障がいでは 37.1%、身体障がいの 50 歳代以下 15.9%で特に高くなっている。「グループホームなど身近な場所」は全体では 4.1%であるが、知的障がいでは 9.4%と高くなっている。

短期入所を利用したい場所は「家から近い」「通い慣れている」「設備が整っている」などの条件が期待されている。

短期入所を利用したい場所

| | 合計 | 問47 短期入所を利用したい場所 | | | | | | 無回答 |
|--------------|------|------------------------------|----------------|----------------|---------|--------|-----|------|
| | | 障がい者支援事業所など知っている職員のいる通いなれた場所 | グループホームなど身近な場所 | 入所施設など設備の整った場所 | 家から近い場所 | どこでもよい | その他 | |
| 全体 | 1234 | 10.9 | 4.1 | 12.6 | 20.8 | 0.8 | 2.0 | 65.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 15.9 | 3.5 | 11.8 | 20.6 | 0.0 | 2.9 | 66.5 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 4.0 | 3.2 | 16.1 | 19.3 | 1.2 | 3.0 | 67.6 |
| 知的障がい | 202 | 37.1 | 9.4 | 12.9 | 31.7 | 0.5 | 1.0 | 45.0 |
| 精神障がい | 199 | 12.1 | 4.5 | 9.0 | 22.6 | 0.5 | 2.0 | 65.8 |
| 手帳なし | 191 | 5.2 | 2.6 | 7.9 | 14.1 | 1.0 | 1.0 | 77.0 |

日中一時支援事業を利用する（したい）目的

日中一時支援事業を利用する(したい)目的では、無回答が74.6%あり、知的障がい(49.0%)を除いて無回答が多い。無回答は日中一時支援事業の利用意向がない人と考えられ、残りの約2~3割(知的障がいは5割)は利用意向があると考えられる。

全体の利用目的では、「本人の日中活動の場の確保」11.8%、「家族のレスパイト（一時的休息）」が11.3%で、知的障がいでは、「本人の日中活動の場の確保」が27.2%、「家族のレスパイト（一時的休息）」30.2%と高く、また、身体障がい50歳代以下も「家族のレスパイト（一時的休息）」が17.6%とやや高くなっている。

日中一時支援事業では「本人の日中活動の場」「家族のレスパイト」が主な目的となっている。

日中一時支援事業を利用する(したい)目的

| | 合計 | 問48 日中一時支援事業を利用する（したい）目的 | | | | | | 無回答 |
|--------------|------|--------------------------|-------|-----------------|------------------|-------------|-----|------|
| | | 本人の日中活動の場の確保 | 療育の機会 | 家族のレスパイト（一時的休息） | 本人と他の障がい者との交流の機会 | 地域社会との交流の機会 | その他 | |
| 全体 | 1234 | 11.8 | 3.5 | 11.3 | 6.2 | 4.2 | 2.3 | 74.6 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 14.1 | 1.8 | 17.6 | 5.3 | 4.1 | 1.8 | 73.5 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 7.0 | 2.2 | 8.7 | 4.6 | 4.6 | 2.8 | 78.9 |
| 知的障がい | 202 | 27.2 | 9.4 | 30.2 | 10.9 | 5.4 | 2.0 | 49.0 |
| 精神障がい | 199 | 16.1 | 4.0 | 5.0 | 9.0 | 3.0 | 2.5 | 75.4 |
| 手帳なし | 191 | 8.4 | 2.1 | 5.2 | 3.7 | 4.2 | 1.6 | 83.2 |

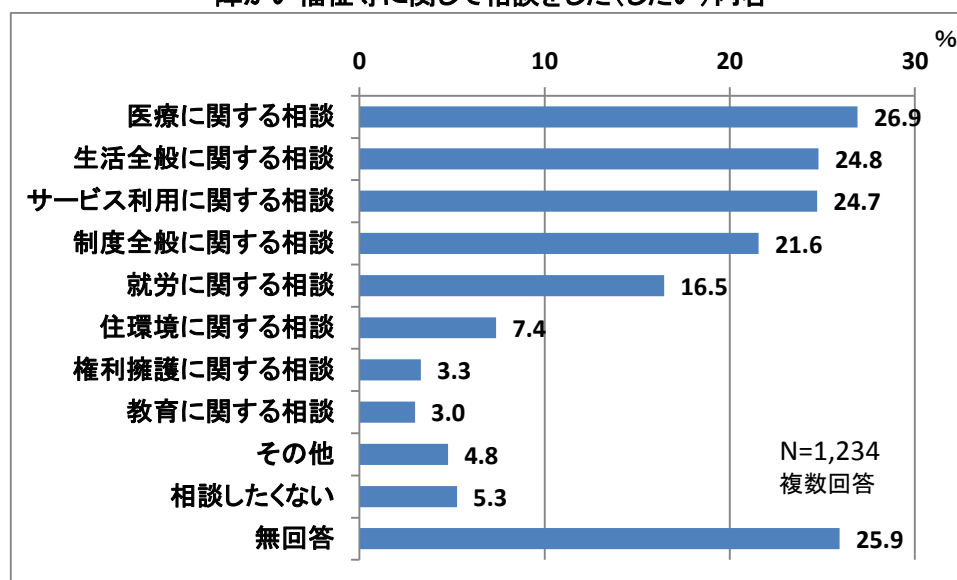
悩み事、困ったことと相談機能

障がい福祉等に関して相談をした（したい）内容

障がい福祉等に関して相談をした（したい）内容は、「医療に関する相談」26.9%、「生活全般に関する相談」24.8%、「サービス利用に関する相談」24.7%が上位3項目である。障がい種別にみると、身体障がい50歳代以下では「サービス利用に関する相談」34.7%、「制度全般に関する相談」31.2%。「医療に関する相談」28.2%の割合が高く、知的障がいでは、「生活全般に関する相談」36.1%、「サービス利用に関する相談」34.2%、「就労に関する相談」30.7%が高い。「教育に関する相談」14.4%も全体に比べるとやや高くなっている。精神障がいでは、「生活全般に関する相談」38.2%、「医療に関する相談」30.7%、「就労に関する相談」34.2%が高い。手帳なしでは「相談したくない」がほかに比べてやや高くなっている。

悩み事、困ったことで相談したい内容は、身体障がいでは「制度」「サービス利用」「医療」について、知的障がいでは「生活全般」「就労」「サービス利用」、精神障がいでは「生活全般」「就労」「医療」の割合が高い。

障がい福祉等に関して相談をした（したい）内容



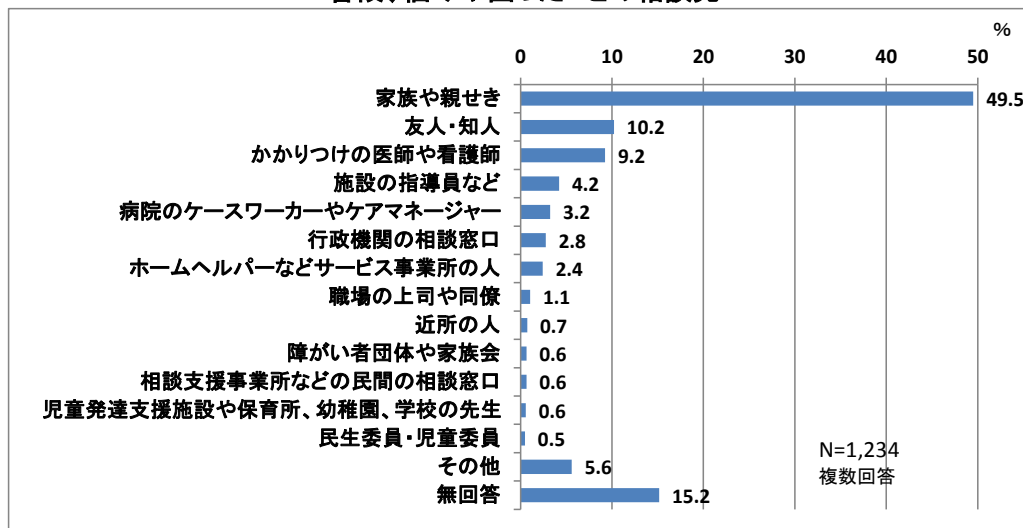
障がい福祉等に関して相談をした（したい）内容(障がい種別)

| | 合計 | 問50 障がい福祉等に関して相談をした（したい）内容 | | | | | | | | | | |
|--------------|------|----------------------------|--------------|------------|----------|----------|-----------|----------|------------|-----|---------|------|
| | | 制度全般に関する相談 | サービス利用に関する相談 | 生活全般に関する相談 | 就労に関する相談 | 教育に関する相談 | 住環境に関する相談 | 医療に関する相談 | 権利擁護に関する相談 | その他 | 相談したくない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 21.6 | 24.7 | 24.8 | 16.5 | 3.0 | 7.4 | 26.9 | 3.3 | 4.8 | 5.3 | 25.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 31.2 | 34.7 | 22.9 | 14.1 | 2.9 | 7.1 | 28.2 | 2.9 | 4.1 | 4.7 | 20.6 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 19.5 | 25.6 | 17.9 | 3.2 | 0.0 | 7.2 | 28.4 | 2.4 | 4.0 | 4.4 | 35.4 |
| 知的障がい | 202 | 25.7 | 34.2 | 36.1 | 30.7 | 14.4 | 6.9 | 17.3 | 4.5 | 4.5 | 3.0 | 16.3 |
| 精神障がい | 199 | 21.6 | 18.6 | 38.2 | 34.2 | 2.0 | 12.1 | 30.7 | 5.0 | 7.5 | 4.0 | 13.1 |
| 手帳なし | 191 | 15.2 | 15.2 | 24.1 | 20.9 | 1.0 | 4.7 | 29.8 | 4.2 | 4.7 | 11.0 | 25.7 |

普段、悩みや困ったことの相談先

悩みや困ったことの相談先は、「家族や親せき」が 49.5%と圧倒的に多い。かかりつけの医師や看護師は 9.2%であるが、そのほかの専門機関に相談する割合は極めて小さい。

普段、悩みや困ったことの相談先

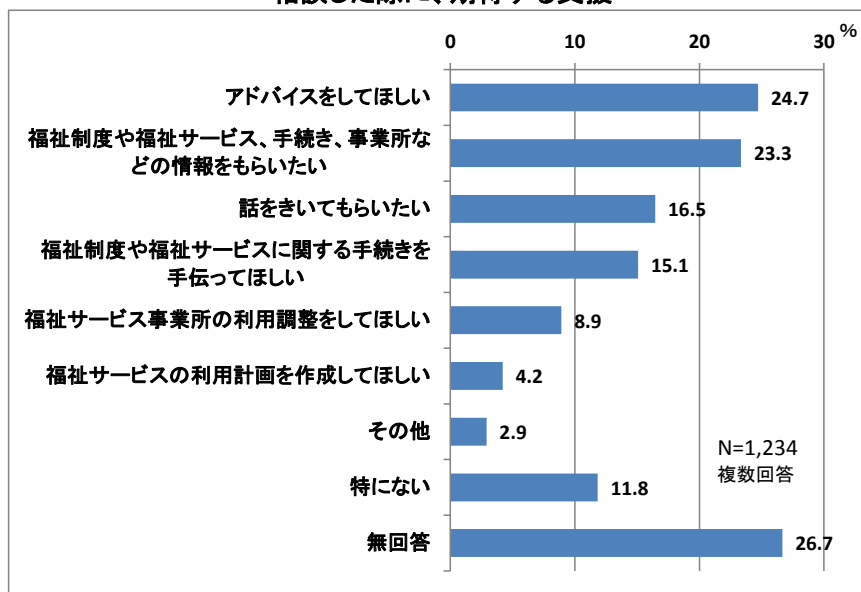


相談した際に、期待する支援

相談した際に、期待する支援は、「アドバイスをしてほしい」24.7%、「福祉制度や福祉サービス、手続き、事業所などの情報をもらいたい」23.3%、「話をきいてもらいたい」16.5%の順となっている。

「アドバイスをしてほしい」「話をきいてもらいたい」はとくに精神障がいとその割合が高く、「福祉制度や福祉サービス、手続き、事業所などの情報をもらいたい」は身体障がい50歳代以下と知的障がいとその割合が高い。

相談した際に、期待する支援



相談した際に、期待する支援(障がい種別)

| | 合計 | 問51 相談した際に、期待する支援 | | | | | | | | |
|--------------|------|----------------------|----------------------------|---------------------|--------------------------|-------------------------------|-------------|----------|------|------|
| | | 福祉サービス事業所の利用調整をしてほしい | 福祉制度や福祉サービスに関する手続きを手伝ってほしい | 福祉サービスの利用計画を作成してほしい | 福祉制度や福祉サービスの利用計画を作成してほしい | 福祉制度や福祉サービス、手続き、事業所などの情報を知りたい | アドバイスをしてほしい | 話をきいてほしい | その他 | 特になし |
| 全体 | 1234 | 8.9 | 15.1 | 4.2 | 23.3 | 24.7 | 16.5 | 2.9 | 11.8 | 26.7 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 8.8 | 16.5 | 2.4 | 30.0 | 25.9 | 11.8 | 1.8 | 14.1 | 20.6 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 9.9 | 13.1 | 3.4 | 21.1 | 18.3 | 9.5 | 1.4 | 12.5 | 36.0 |
| 知的障がい | 202 | 13.4 | 19.8 | 5.0 | 32.7 | 27.7 | 21.3 | 2.0 | 7.9 | 17.3 |
| 精神障がい | 199 | 8.5 | 22.1 | 6.5 | 23.6 | 32.2 | 29.6 | 5.5 | 6.5 | 16.6 |
| 手帳なし | 191 | 3.7 | 6.3 | 4.2 | 17.3 | 31.9 | 22.5 | 5.8 | 16.8 | 24.6 |

気軽に相談するために必要なこと

気軽に相談するために必要なことでは、「住まいから身近にある場所で相談できること」39.2%がいずれの障がいでも最も多くなっているが、知的障がい、精神障がいでの割合が特に高く、また、「専門的な相談ができること」も、知的障がい、精神障がいでの割合が高くなっている。

相談窓口に求められているのは、「近くにあること」「専門的な相談ができること」

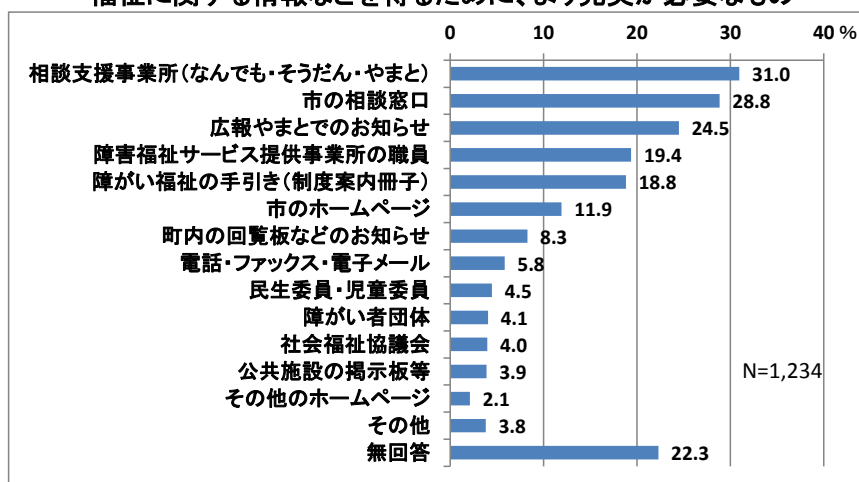
気軽に相談するために必要なこと

| | 合計 | 問52 気軽に相談するために必要なこと | | | | | | 無回答 |
|--------------|------|----------------------|--------------|--------------------------|------------------------|-------------------|-----|------|
| | | 住まいから身近にある場所で相談できること | 専門的な相談ができること | 電話・ファックス・電子メールでの相談ができること | 職員が自宅に訪問して、相談にのってくれること | 相談窓口に関する情報が得られること | その他 | |
| 全体 | 1234 | 39.2 | 27.4 | 13.7 | 17.7 | 17.6 | 3.6 | 24.5 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 40.0 | 31.2 | 20.0 | 16.5 | 20.6 | 2.9 | 17.6 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 35.0 | 18.7 | 8.7 | 19.3 | 19.7 | 2.8 | 31.8 |
| 知的障がい | 202 | 47.5 | 39.6 | 8.9 | 13.9 | 20.3 | 4.0 | 15.8 |
| 精神障がい | 199 | 45.7 | 37.7 | 20.1 | 21.1 | 16.6 | 6.5 | 13.6 |
| 手帳なし | 191 | 34.6 | 28.3 | 20.4 | 17.3 | 11.0 | 3.7 | 25.7 |

福祉に関する情報などを得るために、より充実が必要なもの

福祉に関する情報などを得るためにより充実が必要なものでは、「相談支援事業所(なんでも・そうだん・やまと)」31.0%、「市の相談窓口」28.8%、「広報やまとでのお知らせ」24.5%の順であり、「相談支援事業所(なんでも・そうだん・やまと)」への期待が大きい。

福祉に関する情報などを得るために、より充実が必要なもの



障がい者の権利擁護

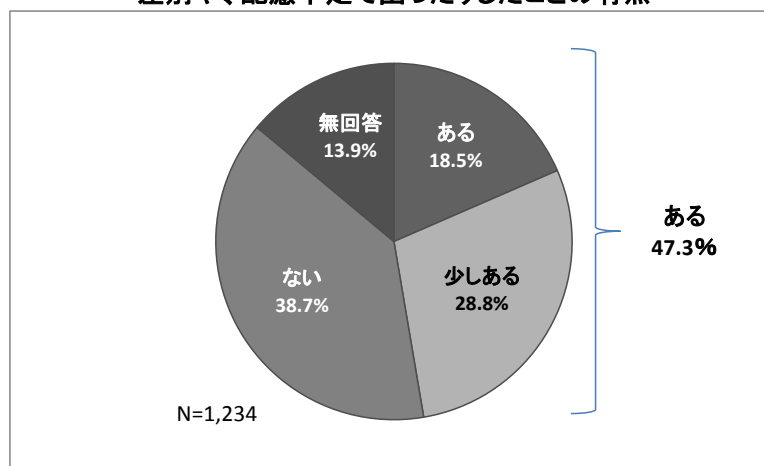
障がいがあることで差別や、配慮不足で困ったりしたことの有無と場所

障がいがあることで差別や、配慮不足で困ったりしたことがあるとする人は47.3%と約半数を占める。身体障がい60歳代以上では「ない」とする割合がやや高いが、知的障がい、精神障がいでは「ある+少しある」の割合が7割近くある。

差別や嫌な思いをした場所では、知的障がいでは「学校・仕事場」、精神障がい、手帳なしでは「学校・仕事場」、「仕事を探するとき」。身体障がいでは「外出先」の割合が特に高くなっている。

障害者権利条約は批准したが、まだまだ障がい者に対する偏見や差別は存在しており、克服に向けた取組が求められる。

差別や、配慮不足で困ったりしたことの有無



差別や、配慮不足で困ったりしたことの有無(障がい種別)

| | 合計 | 問55 障がいがあることで差別や、配慮不足で困ったりしたことの有無 | | | |
|--------------|------|-----------------------------------|------|------|------|
| | | ある | 少しある | ない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 18.5 | 28.8 | 38.7 | 13.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 27.1 | 36.5 | 26.5 | 10.0 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 7.6 | 22.1 | 52.7 | 17.7 |
| 知的障がい | 202 | 31.7 | 39.6 | 22.3 | 6.4 |
| 精神障がい | 199 | 33.7 | 35.7 | 24.1 | 6.5 |
| 手帳なし | 191 | 14.7 | 24.6 | 39.8 | 20.9 |

差別や嫌な思いをした場所(障がい種別)

| | 合計 | 問55-1 差別や嫌な思いをした場所 | | | | | | | |
|--------------|-----|--------------------|----------|------|----------|-----------|---------|------|-----|
| | | 学校・仕事場 | 仕事を探するとき | 外出先 | 余暇を楽しむとき | 病院などの医療機関 | 住んでいる地域 | その他 | 無回答 |
| 全体 | 584 | 36.8 | 23.5 | 40.9 | 17.6 | 19.9 | 19.5 | 12.5 | 1.5 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 108 | 31.5 | 24.1 | 50.0 | 22.2 | 14.8 | 23.1 | 7.4 | 0.9 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 149 | 10.1 | 12.1 | 54.4 | 12.1 | 22.1 | 20.1 | 11.4 | 2.7 |
| 知的障がい | 144 | 55.6 | 11.8 | 41.7 | 24.3 | 19.4 | 20.8 | 6.9 | 0.7 |
| 精神障がい | 138 | 43.5 | 36.2 | 27.5 | 15.2 | 20.3 | 17.4 | 19.6 | 1.4 |
| 手帳なし | 75 | 50.7 | 34.7 | 22.7 | 16.0 | 22.7 | 18.7 | 17.3 | 1.3 |

災害時の避難(防災・減災)

火事や地震等の災害時に一人で避難ができるか、その理由

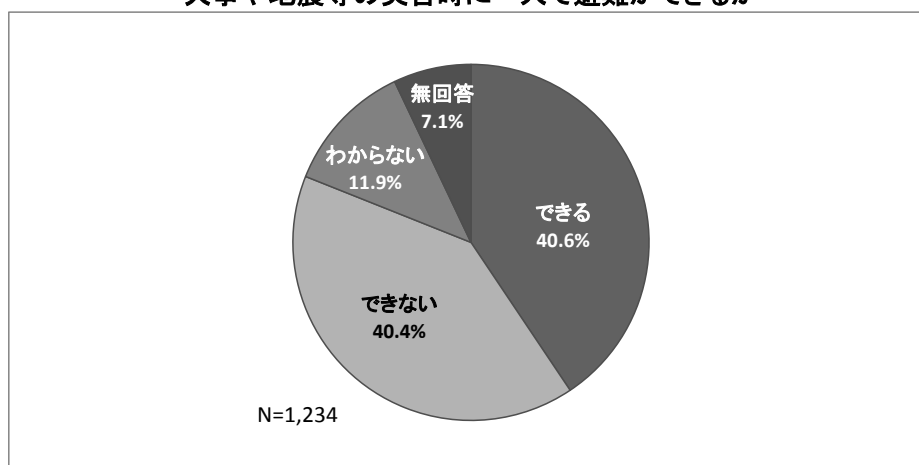
火事や地震等の災害時に一人で避難ができるかでは、「できる」40.8%、「できない」40.4%とほぼ半々である。障がい別に見ると、精神障がい、手帳なしでは「できる」の割合が高く、身体、知的障がいでは「できない」とする割合が高くなっている。

一人で避難できない理由は、身体障がいでは「移動に手助けが必要だから」、知的障がいでは「避難の判断ができないから」、精神障がい、手帳なしでは「避難場所では暮らせないから」の割合が高い。また身体障がい50歳代以下、知的障がい、精神障がいでは「避難場所を知らないから」の割合も高くなっている。

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人の有無では、「いる」とする割合は23.7%にすぎない・

災害時の避難にあたっては、手助けを必要としている1人で避難できない障がい者がいることを十分に考慮しなければならない。

火事や地震等の災害時に一人で避難ができるか



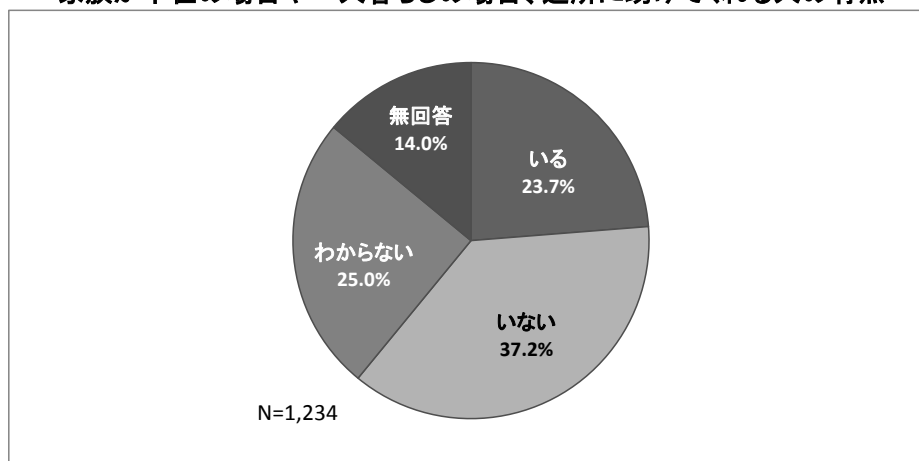
火事や地震等の災害時に一人で避難ができるか(障がい別)

| | 合計 | 問57 火事や地震等の災害時に一人で避難ができるか | | | |
|--------------|------|---------------------------|------|-------|------|
| | | できる | できない | わからない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 40.6 | 40.4 | 11.9 | 7.1 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 41.2 | 46.5 | 7.6 | 4.7 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 36.4 | 41.4 | 11.7 | 10.5 |
| 知的障がい | 202 | 17.3 | 68.8 | 10.4 | 3.5 |
| 精神障がい | 199 | 46.7 | 33.7 | 17.1 | 2.5 |
| 手帳なし | 191 | 63.4 | 16.8 | 11.5 | 8.4 |

一人で避難できない理由(障がい別)

| | 合計 | 問57-1 一人で避難できない理由 | | | | | | | 無回答 |
|--------------|-----|-------------------|--------------|----------------|-----------|-------------|---------------|------|-----|
| | | 移動に手助けが必要だから | 避難の判断ができないから | 緊急時に情報を得られないから | 避難場所が遠いから | 避難場所を知らないから | 避難場所では暮らせないから | その他 | |
| 全体 | 499 | 62.9 | 40.3 | 23.0 | 9.4 | 25.5 | 33.3 | 8.0 | 1.8 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 79 | 83.5 | 38.0 | 19.0 | 10.1 | 25.3 | 40.5 | 8.9 | 0.0 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 208 | 82.2 | 20.7 | 18.3 | 13.5 | 14.9 | 26.9 | 7.2 | 1.9 |
| 知的障がい | 139 | 47.5 | 77.7 | 29.5 | 2.2 | 38.8 | 36.7 | 3.6 | 2.2 |
| 精神障がい | 67 | 34.3 | 44.8 | 26.9 | 9.0 | 40.3 | 43.3 | 10.4 | 1.5 |
| 手帳なし | 32 | 37.5 | 28.1 | 18.8 | 9.4 | 9.4 | 43.8 | 18.8 | 3.1 |

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人の有無



火事や地震等の災害時に困ること

火事や地震等の災害時に困ることは、障害の種類によって大きく異なっている。

身体障がいでは、「避難場所の設備（トイレ等）や環境が不安」、知的障がいでは「周囲とコミュニケーションが取れない」、精神障がい、手帳なしでは「投薬や治療が受けられない」がそれぞれ第1位となっている。

また、身体障がいでは「迅速に避難することができない」「補装具の使用が困難になる」などの割合がほかの障がいに比べて高く、知的障がいでは、「迅速に避難することができない」「救助を求めることができない」「避難場所などの情報が入手できない」等の割合が高くなっている。

災害時の避難にあたっては、避難の途中、避難所での生活など、障がいの特性によって困ることが異なっている点に留意が必要である。

火事や地震等の災害時に困ること(障がい別)

| | 合計 | 問59 火事や地震等の災害時に困ること | | | | | | | | | | |
|--------------|------|---------------------|--------------|---------------------|---------------|----------------|------------------|-------------------|---------------------|-----|------|------|
| | | 投薬や治療が受けられない | 補装具の使用が困難になる | 補装具や日常生活用具の入手が困難になる | 救助を求めることができない | 迅速に避難することができない | 避難場所などの情報が入手できない | 周囲とコミュニケーションがとれない | 避難場所の設備（トイレ等）や環境が不安 | その他 | 特にな | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 48.1 | 7.1 | 11.6 | 16.2 | 35.7 | 18.6 | 22.1 | 45.9 | 3.6 | 7.6 | 12.6 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 45.9 | 18.8 | 20.0 | 18.2 | 42.4 | 14.1 | 17.6 | 51.2 | 4.1 | 10.6 | 8.8 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 41.7 | 8.3 | 12.5 | 11.1 | 41.7 | 14.7 | 9.7 | 44.7 | 2.6 | 8.3 | 16.9 |
| 知的障がい | 202 | 36.6 | 5.9 | 11.9 | 44.1 | 48.0 | 33.7 | 52.5 | 52.5 | 4.0 | 4.5 | 8.4 |
| 精神障がい | 199 | 73.9 | 4.0 | 13.1 | 12.1 | 29.6 | 25.6 | 38.2 | 46.7 | 4.5 | 4.5 | 5.5 |

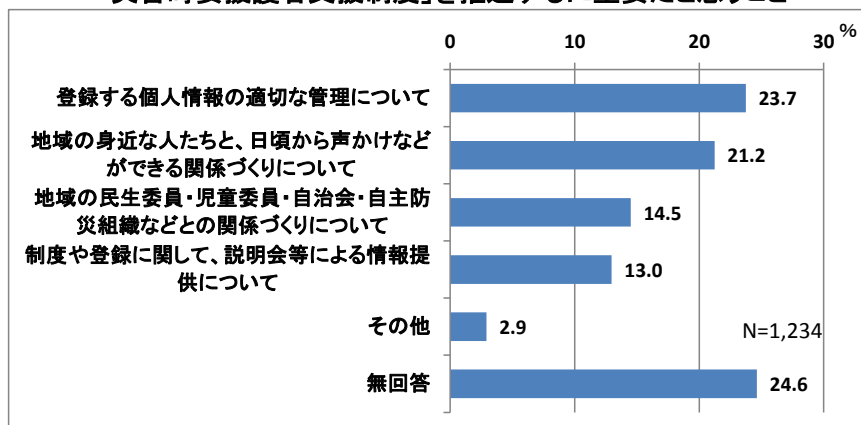
「災害時要援護者支援制度」を推進するに重要だと思うこと

「災害時要援護者支援制度」を推進するために重要だと思うことでは、「登録する個人情報の適切な管理について」23.7%が最も多かったが、「地域の身近な人たちと、日頃から声かけなどができる関係づくりについて」21.2%も次いで多かった。

「登録する個人情報の適切な管理について」は特に精神障がいでの割合が高かった。また、「地域の民生委員・児童委員・自治会・自主防災組織などとの関係づくりについて」では知的障がいの割合が特に高かった。

災害時要援護者支援制度の推進にあたっては、個人情報の取り扱いに十分注意しつつ、地域での見守り、支え合いなど地域福祉の推進を合わせて進めていくことが必要である。

「災害時要援護者支援制度」を推進するに重要だと思うこと



就労

就労状況と主な就労形態

現在の就労状況はいずれの障がいにおいても、「働いていない」とする割合の方が高いが、身体障がい 50 歳代以下と知的障がいではそれぞれ 4 割以上の方が「働いている」と回答している。

就労の形態では、身体障がい 50 歳代以下と手帳なしでは「会社・団体等の正規職員、役員」の割合が高く、知的障がいでは「障がい者支援事業所」の割合が高い。

働いていない理由では、身体障がい 50 歳代以下では「重い障がいのため」が最も多く、身体障がい 60 歳代以上では「高齢のため」が 7 割を占めている。

知的障がいでは、「就学中・就学前のため」「重い障害のため」の割合が高く、精神障がい、手帳なしでは「病気のため（入院を含む）」の割合が高くなっている。

就労状況と主な就労形態

| | 合計 | 問33 現在の就労状況 | | | 合計 | 問34 主な就労形態 | | | | | | | | |
|--------------|------|-------------|--------|------|-----|------------|--------|----------------|-----------------|------|-----|-----------|------|-----|
| | | 働いている | 働いていない | 無回答 | | 自営業 | 家業の手伝い | 会社・団体等の正規職員、役員 | 臨時、パートタイム、アルバイト | 派遣社員 | 内職 | 障がい者支援事業所 | その他 | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 26.7 | 62.6 | 10.8 | 329 | 10.0 | 0.6 | 27.1 | 28.3 | 2.4 | 0.0 | 26.1 | 4.6 | 0.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 42.9 | 51.8 | 5.3 | 73 | 9.6 | 0.0 | 46.6 | 13.7 | 5.5 | 0.0 | 21.9 | 2.7 | 0.0 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 14.5 | 67.0 | 18.5 | 73 | 26.0 | 0.0 | 17.8 | 38.4 | 1.4 | 0.0 | 4.1 | 11.0 | 1.4 |
| 知的障がい | 202 | 44.6 | 52.5 | 3.0 | 90 | 1.1 | 0.0 | 11.1 | 14.4 | 2.2 | 0.0 | 70.0 | 0.0 | 1.1 |
| 精神障がい | 199 | 27.1 | 69.3 | 3.5 | 54 | 3.7 | 1.9 | 16.7 | 44.4 | 0.0 | 0.0 | 31.5 | 1.9 | 0.0 |
| 手帳なし | 191 | 28.8 | 63.9 | 7.3 | 55 | 7.3 | 1.8 | 41.8 | 32.7 | 3.6 | 0.0 | 5.5 | 7.3 | 0.0 |

働いていない理由

| | 合計 | 問36 働いていない理由 | | | | | | | | | | | |
|--------------|-----|--------------|-------|-------------|----------|--------------|----------------|----------|--------------|-----------|---------|------|-----|
| | | 就学中・就学前のため | 高齢のため | 施設に入所しているため | 重い障がいのため | 病気のため（入院を含む） | 希望する職種が得られないため | 通勤が難しいため | 相談窓口がわからないため | 働く必要がないため | 解雇されたため | その他 | 無回答 |
| 全体 | 772 | 8.9 | 39.0 | 3.8 | 18.8 | 30.8 | 7.5 | 6.6 | 3.0 | 9.5 | 2.8 | 14.2 | 2.8 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 88 | 14.8 | 3.4 | 0.0 | 37.5 | 31.8 | 14.8 | 4.5 | 6.8 | 4.5 | 1.1 | 13.6 | 4.5 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 337 | 0.0 | 72.7 | 5.3 | 19.0 | 21.1 | 2.1 | 3.3 | 1.2 | 13.9 | 0.9 | 10.1 | 3.0 |
| 知的障がい | 106 | 53.8 | 0.9 | 9.4 | 27.4 | 2.8 | 5.7 | 2.8 | 0.0 | 1.9 | 1.9 | 10.4 | 1.9 |
| 精神障がい | 138 | 1.4 | 13.8 | 0.0 | 20.3 | 55.8 | 10.9 | 14.5 | 5.1 | 5.1 | 8.7 | 24.6 | 2.2 |
| 手帳なし | 122 | 4.9 | 23.8 | 1.6 | 5.7 | 48.4 | 14.8 | 10.7 | 5.7 | 10.7 | 3.3 | 17.2 | 1.6 |

今後の就労意向

今後希望する就労形態では、「わからない」「特にない」「無回答」の割合が高く、合わせて 59.2% である。この人達は就労意向がないとみることできる。特に身体障がい 60 歳代以上ではこの割合が 8 割を超えており、高齢のため、就労はしないと考えていると思われる。

就労意向のある人についてみると、身体障がい 50 歳代以下では「現在の仕事を続けたい」、知的障がいでは「就労訓練を目的とした施設に通って働きたい」「仕事に関する指導をしてくれる人がいる会社で働きたい」、精神障がい、手帳なしでは「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい」の割合が高くなっている。

収入を得る仕事のための職業訓練などの希望では、知的障がい、精神障がいでは「職業訓練を受けたい」とする割合が 3 割程度みられる。

就労のために必要と思われる内容では、身体障がい 50 歳代以下では「障がいや病気の特性にあった多様な仕事や就労形態」、知的障がい、精神障がいでは、「職場の上司や同僚の理解と協力」、手帳なしでは「心身の健康の維持・向上」が最も多くなっている。知的障がいでは「就労先でのジョブコーチ等の支援」の割合がほかよりも高くなっている。

障がい者の今後の就労に向けては、障がい特性に合わせ就労意欲を高めるとともに、就労意向を有する障がい者に対する支援の充実が求められる。

今後希望する就労形態(障がい種別)

| | 合計 | 問38 今後希望する就労形態 | | | | | | | | | | |
|--------------|------|----------------|-------------|--------------------------------|-----------|----------------------|---------------------------|-----------|-----|-------|------|------|
| | | 自営業を営みたい | 正規職員として働きたい | 臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい | 自宅で仕事がしたい | 就労訓練を目的とした施設に通って働きたい | 仕事に関する指導をしてくれる人がいる会社で働きたい | 現在の仕事を続けた | その他 | わからない | 特にな | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 2.4 | 9.2 | 13.1 | 8.5 | 7.8 | 8.6 | 10.8 | 5.3 | 10.9 | 19.4 | 29.0 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 5.9 | 10.0 | 10.0 | 14.7 | 10.0 | 7.6 | 20.0 | 5.9 | 12.4 | 8.2 | 24.7 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 2.0 | 0.6 | 7.6 | 4.4 | 1.0 | 0.6 | 5.8 | 4.2 | 5.0 | 34.6 | 41.7 |
| 知的障がい | 202 | 0.5 | 12.9 | 8.9 | 4.5 | 28.7 | 22.8 | 15.8 | 5.4 | 14.4 | 6.4 | 18.8 |
| 精神障がい | 199 | 3.5 | 17.6 | 23.1 | 13.6 | 11.1 | 19.1 | 10.6 | 9.5 | 19.1 | 9.0 | 12.1 |
| 手帳なし | 191 | 1.0 | 18.3 | 23.6 | 13.6 | 3.7 | 6.3 | 11.5 | 5.2 | 14.7 | 11.5 | 23.0 |

収入を得る仕事のために職業訓練などの希望(障がい種別)

| | 合計 | 問37 収入を得る仕事のために職業訓練などの希望 | | | |
|--------------|------|--------------------------|----------|----------------------|------|
| | | すでに職業訓練を受けている | 職業訓練を受けた | 職業訓練を受けたくない、受ける必要はない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 3.5 | 16.5 | 36.9 | 43.2 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 6.5 | 20.6 | 32.4 | 40.6 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 0.2 | 3.6 | 42.9 | 53.3 |
| 知的障がい | 202 | 7.4 | 28.7 | 24.3 | 39.6 |
| 精神障がい | 199 | 7.5 | 30.7 | 35.7 | 26.1 |
| 手帳なし | 191 | 2.6 | 20.9 | 39.3 | 37.2 |

就労するために必要と思われる内容(障がい種別)

| | 合計 | 問39 就労するために必要と思われる内容 | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-------------------------|------------------|----------------|-----------------|-------------|---------|---------------|---------------|-----|-------|------|
| | | 障がいや病気の特性にあった多様な仕事や就労形態 | 就労にむすびつく技術や知識の習得 | 職場の上司や同僚の理解と協力 | 就労先でのジョブコーチ等の支援 | 心身の健康の維持・向上 | 通勤手段の確保 | 受け入れ先の施設面での整備 | 就職活動に必要な情報の提供 | その他 | わからない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 24.3 | 12.2 | 25.4 | 6.3 | 21.1 | 6.7 | 5.3 | 7.1 | 3.7 | 13.9 | 37.1 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 34.1 | 21.2 | 31.8 | 5.3 | 22.9 | 12.9 | 10.6 | 8.2 | 4.1 | 10.0 | 25.9 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 9.7 | 4.6 | 6.6 | 1.2 | 8.2 | 3.8 | 2.4 | 3.4 | 4.2 | 17.7 | 58.4 |
| 知的障がい | 202 | 42.1 | 15.3 | 43.6 | 24.3 | 21.3 | 9.9 | 10.9 | 12.9 | 1.0 | 9.9 | 18.3 |
| 精神障がい | 199 | 42.2 | 17.1 | 47.2 | 8.5 | 42.2 | 7.5 | 5.5 | 11.6 | 4.5 | 11.6 | 11.6 |
| 手帳なし | 191 | 19.4 | 14.7 | 28.8 | 1.0 | 35.1 | 4.2 | 3.7 | 7.3 | 3.1 | 14.1 | 31.4 |

余暇支援・外出支援

平日日中の過ごし方と休日などの余暇の過ごし方

平日の日中の過ごし方では、身体障がい50歳代以下と知的障がい以外は「自宅で過ごしている」とする割合が高く、概ね半数に達する。身体障がい50歳代以下は「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が最も多く、知的障がいは「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が最も多くなっている。

就労の場、日中活動の場を持たない障がい者はほとんど自宅で過ごすと考えられ、日中活動の場の整備、雇用機会の創出等による自宅以外での過ごす場が必要である。

平日の日中の主な過ごし方(障がい種別)

| | 合計 | 問22 平日の日中の主な過ごし方 | | | | | | | | | | | | | 無回答 |
|--------------|------|-----------------------------|------------------------|---------------|-----------------------------|-----------------|-----------------|-----------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------|--------------------------|-----|------|
| | | 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている | ボランティアなど、収入を得ない活動をしている | 専業主婦(主夫)をしている | 福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型含む) | 病院などのデイケアに通っている | リハビリテーションを受けている | 自宅で過ごしている | 入所している施設や病院等での過ごしている | 大学、専門学校、職業訓練などに通っている | 特別支援学校(小中高等部)に通っている | 特別支援学校以外の高校、小中学校に通っている | 幼稚園、保育所、児童発達支援施設などに通っている | その他 | |
| 全体 | 1234 | 15.3 | 0.6 | 10.5 | 8.8 | 3.1 | 2.1 | 37.8 | 4.4 | 0.4 | 1.9 | 2.9 | 0.6 | 3.6 | 8.2 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 33.5 | 0.0 | 8.2 | 12.9 | 1.8 | 0.6 | 24.1 | 1.2 | 1.8 | 2.4 | 4.1 | 0.6 | 2.9 | 5.9 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 8.0 | 0.8 | 13.1 | 1.4 | 3.4 | 4.8 | 47.3 | 6.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.4 | 10.9 |
| 知的障がい | 202 | 11.4 | 0.0 | 0.5 | 40.1 | 1.0 | 0.0 | 6.9 | 4.5 | 0.0 | 10.9 | 14.9 | 3.5 | 0.5 | 5.9 |
| 精神障がい | 199 | 14.6 | 0.5 | 12.6 | 7.5 | 5.0 | 0.0 | 47.7 | 3.0 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 3.5 | 4.5 |
| 手帳なし | 191 | 22.0 | 1.0 | 12.6 | 1.6 | 2.6 | 0.5 | 40.8 | 4.7 | 0.5 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 3.7 | 8.4 |

休日などの余暇の過ごし方(障がい種別)

| | 合計 | 問23 休日などの余暇の過ごし方 | | | | | | | | | | | 無回答 | |
|--------------|------|------------------|---------------|---------|---------------------|--------------------------|------------------|---------|---------|---------------|--------------|-----|------|-----|
| | | 家でゆっくりくつろぐ(家で遊ぶ) | 趣味・教養・学習などを行う | 近所を散歩する | 友人・知人と会う(交流を深める・遊ぶ) | デパートやショッピングセンターなどへ買い物に行く | 観劇・映画・コンサートなどに行く | スポーツをする | 旅行に出かける | 地域の行事や活動に参加する | 図書館・博物館などへ行く | その他 | | |
| 全体 | 1234 | 63.5 | 18.9 | 17.1 | 16.3 | 27.6 | 5.6 | 4.8 | 6.4 | 3.1 | 3.6 | 6.4 | 10.9 | 5.4 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 65.3 | 18.8 | 10.6 | 16.5 | 32.4 | 7.6 | 5.3 | 11.8 | 3.5 | 2.9 | 5.3 | 11.2 | 4.1 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 56.7 | 18.9 | 21.3 | 17.5 | 18.1 | 4.2 | 3.6 | 7.2 | 3.4 | 3.4 | 5.2 | 12.3 | 7.8 |
| 知的障がい | 202 | 77.2 | 13.4 | 19.8 | 8.9 | 42.1 | 6.4 | 7.4 | 5.4 | 5.4 | 5.4 | 6.9 | 5.4 | 1.5 |
| 精神障がい | 199 | 66.8 | 19.1 | 13.6 | 18.6 | 25.6 | 5.5 | 5.5 | 3.5 | 1.0 | 3.0 | 9.0 | 12.6 | 3.5 |
| 手帳なし | 191 | 68.1 | 23.6 | 13.6 | 16.2 | 36.6 | 5.8 | 3.7 | 4.2 | 2.6 | 3.7 | 8.4 | 9.4 | 4.2 |

外出の状況と外出で困ること

外出の頻度は、身体障がい 60 歳代以上を除くと「ほとんど毎日外出する」が最も多く、外出する際の同伴者は知的障がいを除いて「一人で外出する」が最も多くなっている。

知的障がいでは外出の際に「父母・祖父母・兄弟」が同伴する割合が 69.3%と高い。

身体障がいでは配偶者等家族の同伴、知的障がいではホームヘルパーや施設の職員等が同伴する割合が高くなっている。

外出の主な目的をみると、身体障がい 50 歳代以下と知的障がいは「通勤・通学・通所」が最も多く、身体障がい 60 歳代以上と精神障がいでは「医療機関への受診」が、精神障がい、手帳なしでは、「買い物に行く」割合も多い。

外出の際に困ることでは、身体障がいと手帳なしでは「特に困ることはない」が最も多くなっているが、知的障がいでは「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く、そのほか「切符の買い方や乗換えがわかりにくい」の割合も高くなっている。精神障がいでは、「外出にお金がかかる」が最も多いが、そのほか、「発作など突然の身体の変化が心配」「周囲の目が気になる」の割合も高くなっている。

身体障がいでは「電車やバスの乗り降りが困難」「道路や駅に階段や段差が多い」の割合がやや高くなっている。

障がい者の外出にあたっては、道路、施設等のバリアフリーの推進、外出を支援する人的資源、周囲の暖かい目が求められている。

外出の頻度(障がい種別)

| | 合計 | 問18 外出の頻度 | | | | | |
|--------------|------|------------|------------|-------------|------------|-----------|-----|
| | | ほとんど毎日外出する | 週に2～3回外出する | 週に1回くらい外出する | 月に1～2回外出する | ほとんど外出しない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 41.5 | 27.1 | 9.6 | 8.9 | 7.1 | 5.8 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 55.3 | 20.0 | 7.1 | 7.1 | 5.9 | 4.7 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 28.4 | 35.8 | 9.3 | 9.9 | 8.7 | 7.8 |
| 知的障がい | 202 | 64.9 | 8.9 | 8.4 | 5.4 | 5.9 | 6.4 |
| 精神障がい | 199 | 41.7 | 27.1 | 12.6 | 8.5 | 7.0 | 3.0 |
| 手帳なし | 191 | 45.0 | 26.7 | 8.9 | 9.4 | 6.8 | 3.1 |

外出する際の同伴者(障がい種別)

| | 合計 | 問19 外出する際の主な同伴者 | | | | | | |
|--------------|------|-----------------|------------|------|---------------|-------------------|---------|-----|
| | | 父母・祖父母・兄弟 | 配偶者(夫または妻) | 子ども | ホームヘルパーや施設の職員 | その他の人(友人やボランティア等) | 一人で外出する | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 20.3 | 23.3 | 8.9 | 10.9 | 5.3 | 53.2 | 5.7 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 31.8 | 15.9 | 6.5 | 14.1 | 6.5 | 55.3 | 4.7 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 1.8 | 34.6 | 13.3 | 11.5 | 3.4 | 50.3 | 8.2 |
| 知的障がい | 202 | 69.3 | 0.0 | 0.5 | 23.8 | 4.0 | 32.2 | 5.0 |
| 精神障がい | 199 | 25.1 | 19.6 | 5.5 | 4.0 | 8.0 | 61.8 | 1.5 |
| 手帳なし | 191 | 17.8 | 22.0 | 8.9 | 5.2 | 6.8 | 64.9 | 4.7 |

主な外出の目的(障がい種別)

| | 合計 | 問20 主な外出の目的 | | | | | | | | | |
|--------------|------|-------------|------------|----------|--------|----------|------------|-------------|-------|-----|-----|
| | | 通勤・通学・通所 | 訓練やリハビリに行く | 医療機関への受診 | 買い物に行く | 友人・知人に会う | 趣味やスポーツをする | グループ活動に参加する | 散歩に行く | その他 | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 31.6 | 9.8 | 61.6 | 63.0 | 21.3 | 15.9 | 8.1 | 29.7 | 6.5 | 4.8 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 55.9 | 10.0 | 53.5 | 54.7 | 21.8 | 18.8 | 5.9 | 27.1 | 4.7 | 4.7 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 9.1 | 15.9 | 66.0 | 59.2 | 22.5 | 14.9 | 9.1 | 31.0 | 7.6 | 7.0 |
| 知的障がい | 202 | 80.2 | 6.4 | 41.6 | 58.9 | 10.4 | 16.8 | 13.9 | 27.7 | 5.4 | 4.5 |
| 精神障がい | 199 | 30.7 | 6.0 | 74.9 | 73.4 | 23.1 | 14.6 | 5.5 | 25.1 | 5.5 | 1.0 |
| 手帳なし | 191 | 30.4 | 2.6 | 63.9 | 69.1 | 24.6 | 16.2 | 5.8 | 34.0 | 5.8 | 4.7 |

外出するときに困ること(障がい種別)

| | 合計 | 問21 外出する時に困ること | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|------------------------|-------------------|-------------------|---------------------------------|--------------------------------------|-----|-------------------|------|
| | | 公共交 通機関 が少な い(な い) | 電車や バスの 乗り降 りが困 難 | 道路や 駅に階 段や段 差が多 い | 切符の 買い方 や乗換 えがわ かりに くい | 外出先 の建物 の設備 が不便 (トイレ など) | 介助者 が確保 できな い | 外出に お金が かかる | 周囲の 目が気 になる | 発作な ど突然 の身体 の変化 が心配 | 困った 時にど うすれ ばいい のか心 配 | その他 | 特に困 ること はない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 6.2 | 12.6 | 15.0 | 8.8 | 7.6 | 4.7 | 18.7 | 11.5 | 17.0 | 17.7 | 7.5 | 29.3 | 8.3 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 7.6 | 20.6 | 22.4 | 7.6 | 15.3 | 9.4 | 15.9 | 10.0 | 18.2 | 12.9 | 8.8 | 22.9 | 8.2 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 7.8 | 16.1 | 22.3 | 6.0 | 9.7 | 3.6 | 13.7 | 3.2 | 12.9 | 10.3 | 7.4 | 33.2 | 10.3 |
| 知的障がい | 202 | 4.0 | 12.9 | 9.9 | 22.3 | 9.9 | 9.9 | 14.9 | 11.4 | 16.3 | 38.1 | 8.9 | 17.3 | 8.9 |
| 精神障がい | 199 | 8.0 | 10.1 | 8.0 | 14.1 | 4.0 | 5.0 | 35.7 | 29.6 | 30.7 | 26.1 | 8.5 | 20.6 | 2.5 |
| 手帳なし | 191 | 2.6 | 3.1 | 3.7 | 0.5 | 0.5 | 1.0 | 19.9 | 16.2 | 18.3 | 11.5 | 3.1 | 40.8 | 9.9 |

障がい児支援—保護者の回答のみのため、サンプル数が少ない点に留意が必要

主な通園・通学先

主な通園・通学先は、身体障がいでは「特別支援学校」「通常の学級」、知的障がいでは、「特別支援学級」「特別支援学校」、精神障がいでは、「専門学校・大学」、手帳なしでは「通常の学級」である。

主な通園・通学先

| | 合計 | 問26 主な通園・通学先 | | | | | | | | | |
|-------|-----|--------------|-----|---------|----------|--------|--------|-------|-------|---------|------|
| | | 幼稚園 | 保育園 | 療育等グループ | 児童発達支援施設 | 特別支援学校 | 特別支援学級 | 通常の学級 | 職業訓練校 | 専門学校・大学 | その他 |
| 全体 | 123 | 5.7 | 1.6 | 0.8 | 4.1 | 21.1 | 31.7 | 19.5 | 0.8 | 5.7 | 8.9 |
| 身体障がい | 26 | 3.8 | 7.7 | 0.0 | 3.8 | 30.8 | 15.4 | 30.8 | 0.0 | 0.0 | 7.7 |
| 知的障がい | 88 | 3.4 | 0.0 | 1.1 | 5.7 | 28.4 | 39.8 | 10.2 | 1.1 | 2.3 | 8.0 |
| 精神障がい | 16 | 12.5 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 6.3 | 12.5 | 25.0 | 0.0 | 37.5 | 0.0 |
| 手帳なし | 9 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 66.7 | 0.0 | 0.0 | 11.1 |

障がいや発達の不安に気づいたきっかけ

障がいや発達の不安に気づいたきっかけは、身体障がいは「その他」、知的障がいは「乳幼児健診」「普段の様子」、精神障がいは「普段の様子」、手帳なしは「学校での様子」「普段の様子」となっている。

医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでの期間は、「3ヶ月以内」が多いが、精神障がい、手帳なしでは「2年以上」、「3年以上」の割合も高い。

医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでに受けたい支援はいずれの障がいも「相談できる窓口」が最も多い。

障がいや発達の不安に気づいたきっかけ

| | 合計 | 問27 障がいや発達の不安に気づいたきっかけ | | | | | | | 無回答 |
|-------|-----|------------------------|-------------|-------------|--------|-------|------|------|-----|
| | | 乳幼児健診 | 医療機関を受診したとき | 幼稚園・保育園での様子 | 学校での様子 | 普段の様子 | その他 | | |
| 全体 | 123 | 23.6 | 6.5 | 8.1 | 6.5 | 25.2 | 22.0 | 8.1 | |
| 身体障がい | 26 | 19.2 | 15.4 | 3.8 | 0.0 | 7.7 | 46.2 | 7.7 | |
| 知的障がい | 88 | 28.4 | 2.3 | 9.1 | 5.7 | 28.4 | 22.7 | 3.4 | |
| 精神障がい | 16 | 6.3 | 6.3 | 6.3 | 6.3 | 43.8 | 12.5 | 18.8 | |
| 手帳なし | 9 | 11.1 | 11.1 | 0.0 | 22.2 | 22.2 | 11.1 | 22.2 | |

医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでの期間

| | 合計 | 問28 医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでの期間 | | | | | | |
|-------|-----|------------------------------|-------|------|------|------|-------|------|
| | | 3ヶ月以内 | 6ヶ月以内 | 1年以上 | 2年以上 | 3年以上 | 分からない | 無回答 |
| 全体 | 123 | 35.0 | 8.9 | 19.5 | 10.6 | 9.8 | 8.9 | 7.3 |
| 身体障がい | 26 | 65.4 | 0.0 | 15.4 | 0.0 | 3.8 | 7.7 | 7.7 |
| 知的障がい | 88 | 37.5 | 11.4 | 22.7 | 10.2 | 8.0 | 8.0 | 2.3 |
| 精神障がい | 16 | 18.8 | 0.0 | 18.8 | 18.8 | 18.8 | 6.3 | 18.8 |
| 手帳なし | 9 | 22.2 | 11.1 | 0.0 | 22.2 | 22.2 | 11.1 | 11.1 |

医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでに受けたい支援

| | 合計 | 問29 医療機関や専門相談機関に受診・相談するまでに受けたい支援 | | | | |
|-------|-----|----------------------------------|---------------|-----------------|-----|------|
| | | 相談できる窓口 | 親(家族)へのこころのケア | 障がいについての知識を得る機会 | その他 | 無回答 |
| 全体 | 123 | 49.6 | 13.8 | 23.6 | 1.6 | 11.4 |
| 身体障がい | 26 | 53.8 | 11.5 | 23.1 | 0.0 | 11.5 |
| 知的障がい | 88 | 51.1 | 17.0 | 22.7 | 1.1 | 8.0 |
| 精神障がい | 16 | 37.5 | 6.3 | 37.5 | 0.0 | 18.8 |
| 手帳なし | 9 | 44.4 | 11.1 | 22.2 | 0.0 | 22.2 |

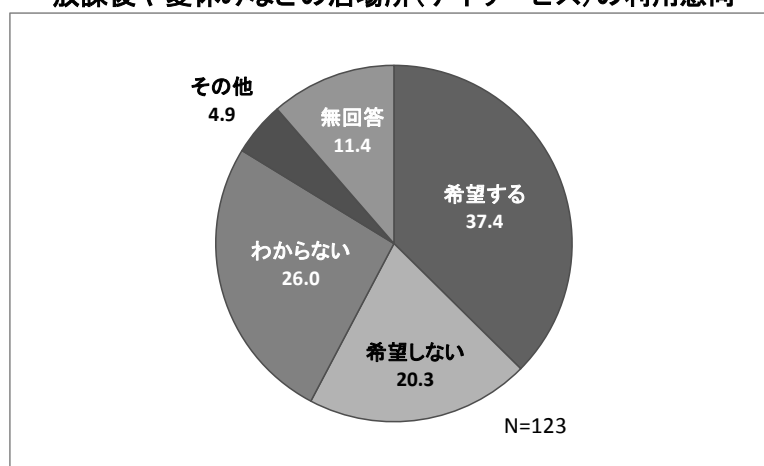
放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)の利用意向

放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)の利用意向は、「希望する」37.4%、「希望しない」20.3%と希望する方が多いが、「わからない」26.0%、「無回答」11.4%とした回答が約4割ある。

身体障がい、知的障がいでは「希望する」が多いが、精神障がい、手帳なしでは「わからない」が多くなっている。

放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)は、身体障がい、知的障がいの子どもにとって必要なサービスと考えられるが、精神障がいの子どもの利用意向は不明な要素が多い。

放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)の利用意向



放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)の利用意向(障がい別)

| | 合計 | 問30 放課後や夏休みなどの居場所(デイサービス)の利用意向 | | | | |
|-------|-----|--------------------------------|-------|-------|------|------|
| | | 希望する | 希望しない | わからない | その他 | 無回答 |
| 全体 | 123 | 37.4 | 20.3 | 26.0 | 4.9 | 11.4 |
| 身体障がい | 26 | 42.3 | 26.9 | 19.2 | 11.5 | 0.0 |
| 知的障がい | 88 | 44.3 | 20.5 | 22.7 | 4.5 | 8.0 |
| 精神障がい | 16 | 12.5 | 12.5 | 37.5 | 6.3 | 31.3 |
| 手帳なし | 9 | 33.3 | 11.1 | 33.3 | 11.1 | 11.1 |

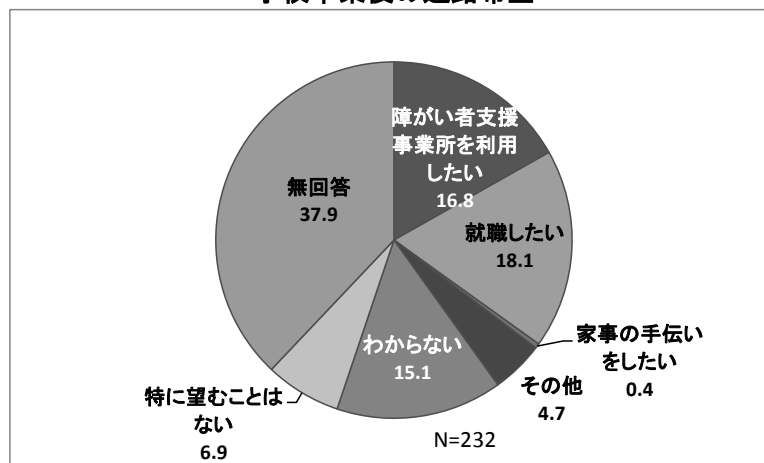
学校卒業後の進路希望—本人の回答のみである点に留意が必要

学校卒業後の進路希望(回答者が本人のみ)では、「障がい者支援事業所(作業所や通所施設等)を利用したい」16.8%、「就職したい」18.1%を合わせた34.9%が就業したいと考えている。

「障がい者支援事業所(通所施設等)を利用したい」は、身体障がい、知的障がいにその割合が高く、「就職したい」は知的障がいでその割合が高い。全般に精神障がい、手帳なしは「わからない」と「無回答」が多い。

身体障がい、知的障がいで進路希望が比較的明確であるが、精神障がい、手帳なしでは卒業後の進路希望がはっきりしない。

学校卒業後の進路希望



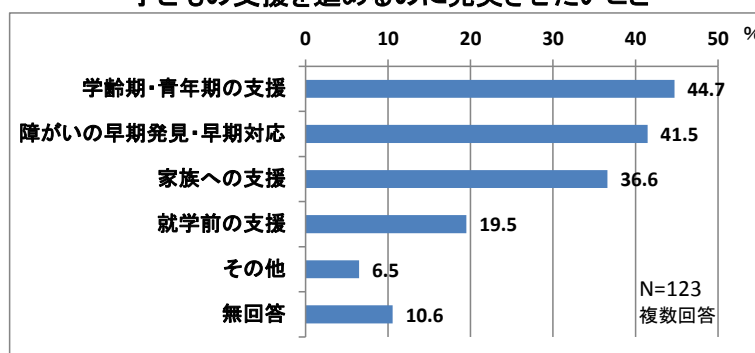
学校卒業後の進路希望(障がい種別)

| | 合計 | 問31 学校卒業後の進路希望 | | | | | | |
|-------|-----|-----------------|-------|------------|-----|-------|-----------|------|
| | | 障がい者支援事業所を利用したい | 就職したい | 家事の手伝いをしたい | その他 | わからない | 特に望むことはない | 無回答 |
| 全体 | 232 | 16.8 | 18.1 | 0.4 | 4.7 | 15.1 | 6.9 | 37.9 |
| 身体障がい | 38 | 23.7 | 18.4 | 2.6 | 2.6 | 7.9 | 10.5 | 34.2 |
| 知的障がい | 94 | 33.0 | 25.5 | 1.1 | 3.2 | 22.3 | 1.1 | 13.8 |
| 精神障がい | 35 | 14.3 | 17.1 | 0.0 | 5.7 | 11.4 | 2.9 | 48.6 |
| 手帳なし | 25 | 4.0 | 16.0 | 0.0 | 8.0 | 20.0 | 8.0 | 44.0 |

子どもの支援を進めるのに充実させたいこと

子どもの支援を進めるのに充実させたいことでは、「学齢期・青年期の支援」44.7%、「障がいの早期発見・早期対応」41.5%、「家族への支援」36.6%の順に多い。身体障がいでは「家族への支援」が、知的障がいでは「学齢期・青年期の支援」が、精神障がい、手帳なしでは「障がいの早期発見・早期対応」が最も多くなっている。障がい児への支援では、学齢期・青年期の支援、障がいの早期発見・早期対応及び家族への支援が求められている。

子どもの支援を進めるのに充実させたいこと



子どもの支援を進めるのに充実させたいこと(障がい種別)

| | 合計 | 問32 子どもの支援を進めるのに充実させたいこと | | | | | |
|-------|-----|--------------------------|--------|------------|--------|------|------|
| | | 障がいの早期発見・早期対応 | 就学前の支援 | 学齢期・青年期の支援 | 家族への支援 | その他 | 無回答 |
| 全体 | 123 | 41.5 | 19.5 | 44.7 | 36.6 | 6.5 | 10.6 |
| 身体障がい | 26 | 42.3 | 26.9 | 38.5 | 46.2 | 7.7 | 7.7 |
| 知的障がい | 88 | 37.5 | 22.7 | 51.1 | 37.5 | 5.7 | 9.1 |
| 精神障がい | 16 | 68.8 | 6.3 | 18.8 | 50.0 | 0.0 | 6.3 |
| 手帳なし | 9 | 55.6 | 11.1 | 33.3 | 22.2 | 11.1 | 22.2 |

医療ケア

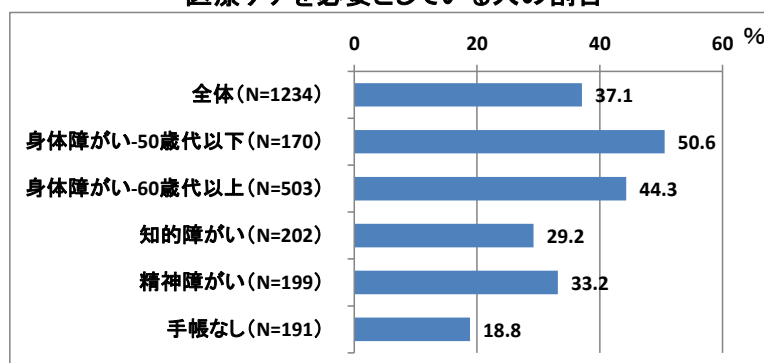
必要な医療ケア

医療ケアを必要としている割合(全体から無回答を除いた割合)は、全体で 37.1%であるが、身体障がいでは 50 歳代以下 50.6%、60 歳代以上 44.3%、精神障がい 33.2%、知的障がい 29.2%、手帳なし 18.8%の順となっている。

必要な医療ケアは、服薬管理 13.5%、その他 13.3%が多く、次いで人工透析 5.2%、人工肛門 3.2%、たん吸引 2.0%と続く。

身体障がい 50 歳代以下、知的障がい、精神障がいで服薬管理の割合がやや高い。身体障がい 60 歳代以上ではその他が多い。

医療ケアを必要としている人の割合



必要な医療ケア(障がい種別)

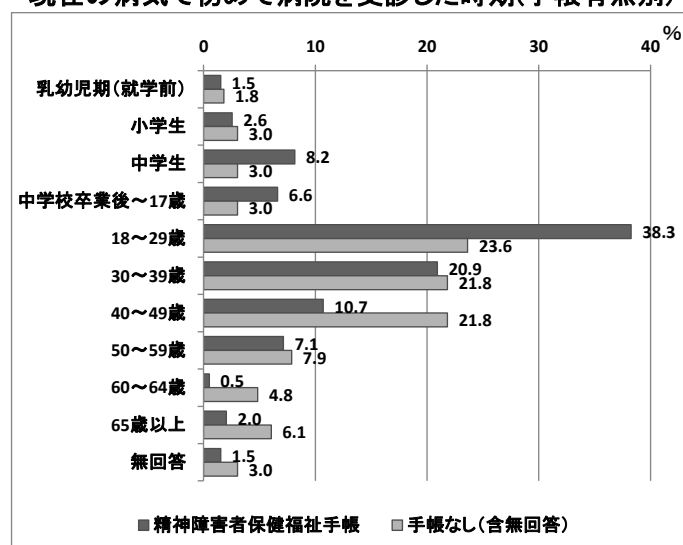
| | 合計 | 問11 必要な医療ケア | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-------------|-------------|------|--------|------|---------|--------|---------------|------|--------|--------|----------|------|
| | | 気管切開 | 人工呼吸器(レスビタ) | 等ライサ | 吸入(ネフ) | たん吸引 | 胃ろう・腸ろう | 鼻腔経管栄養 | 中心静脈栄養(I V H) | 人工透析 | 置カテテル留 | 膀胱(人工) | ストーマ(人工) | 服薬管理 |
| 全体 | 1234 | 0.6 | 0.7 | 1.9 | 2.0 | 1.5 | 0.8 | 0.2 | 5.2 | 1.1 | 3.2 | 13.5 | 13.3 | 62.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 2.9 | 1.8 | 4.1 | 5.3 | 4.1 | 3.5 | 1.2 | 7.6 | 1.8 | 5.9 | 18.2 | 17.1 | 49.4 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 0.6 | 1.0 | 2.4 | 3.0 | 2.2 | 0.8 | 0.0 | 9.5 | 1.8 | 5.6 | 9.3 | 15.7 | 55.7 |
| 知的障がい | 202 | 1.0 | 0.0 | 2.5 | 1.0 | 1.5 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 19.8 | 8.9 | 70.8 |
| 精神障がい | 199 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 21.1 | 12.6 | 66.8 |
| 手帳なし | 191 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.5 | 9.9 | 6.8 | 81.2 |

精神医療

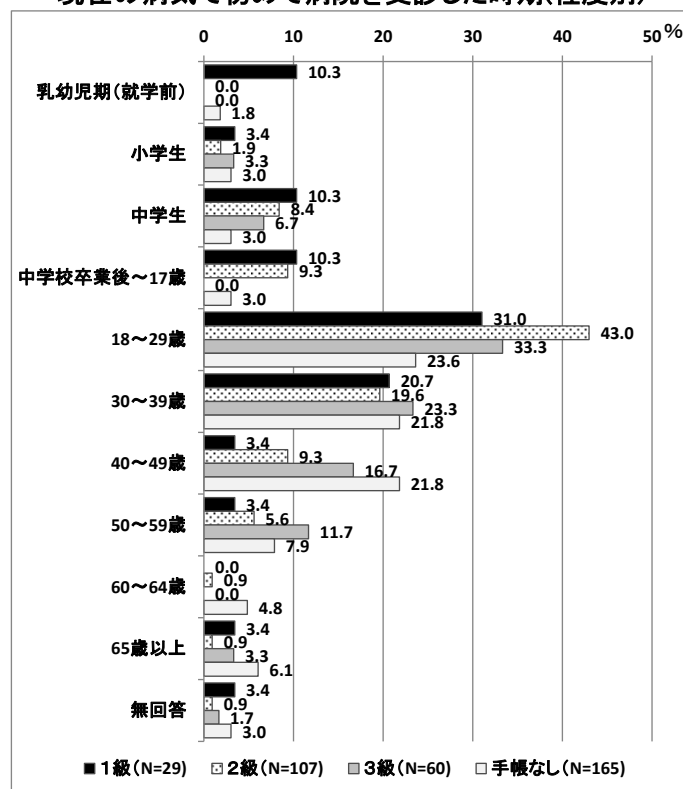
現在の病気で初めて病院を受診した時期

現在の病気で初めて病院を受診した時期は、精神障害者保健福祉手帳を持っている人では18～29歳が38.3%と最も多く、次いで30～39歳が20.9%となっている。精神障害者保健福祉手帳を持っていない人（概ね自立支援医療受給者とみることができる）では、18～29歳が23.6%で最も多いが、30～39歳、40～49歳も21.8%あり、精神障害者保健福祉手帳を持つ人に比べて発症時期が遅い傾向がみられる。
 精神障害者保健福祉手帳1級では18歳未満で発症している割合がやや高い傾向がある。
 自立支援医療受給者は精神障害者保健福祉手帳取得者に比べて発症時期が遅い傾向がある。

現在の病気で初めて病院を受診した時期(手帳有無別)



現在の病気で初めて病院を受診した時期(程度別)



利用している医療機関と受診形態

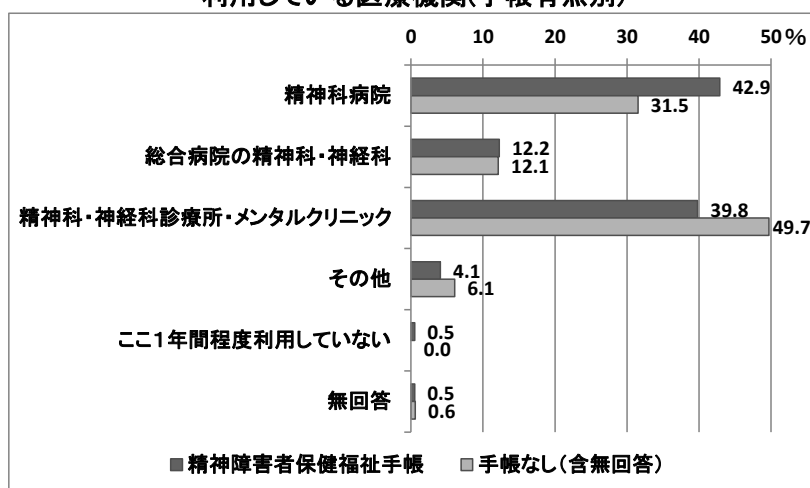
利用している医療機関は、精神障害者保健福祉手帳を持っている人では精神科病院 42.9%が最も多く、次いで精神科・神経科診療所・メンタルクリニック 39.8%が多い。精神障害者保健福祉手帳を持っていない人（概ね自立支援医療受給者とみることができる）は、精神科・神経科診療所・メンタルクリニック 49.7%が最も多く、次いで精神科病院 31.5%が多い。

医療機関の受診形態は、通院が 94.5%で入院は 3.0%である。精神障害者保健福祉手帳 1 級では入院が 17.2%と多く、2 級で 3.7%、3 級で 1.7%、精神障害者保健福祉手帳を持っていない人（概ね自立支援医療受給者とみることができる）は、0.6%である。

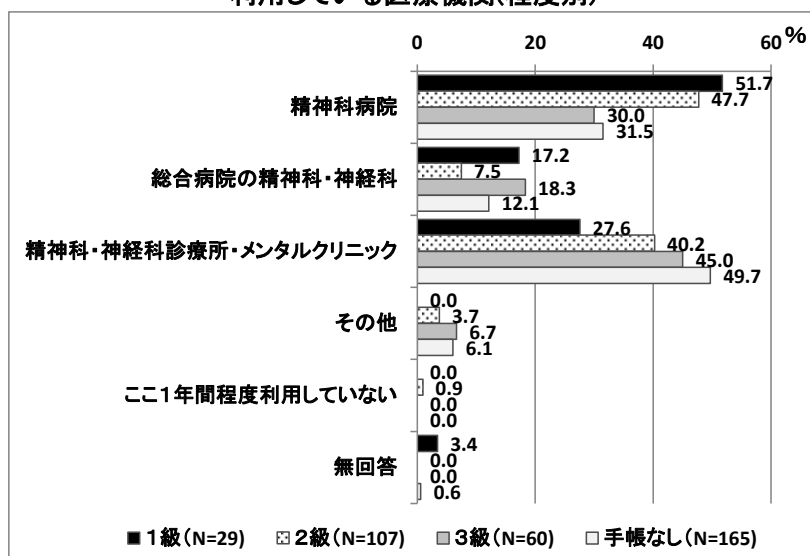
訪問看護を受けている人は 0.6%と少ない。

精神疾患の方の利用する医療機関は、精神科病院と精神科・神経科診療所・メンタルクリニックがそれぞれ概ね 4 割ずつであり、そのほとんどが通院である。障害の程度が軽くなるほど精神科・神経科診療所・メンタルクリニックの利用割合が多くなっている。

利用している医療機関(手帳有無別)



利用している医療機関(程度別)



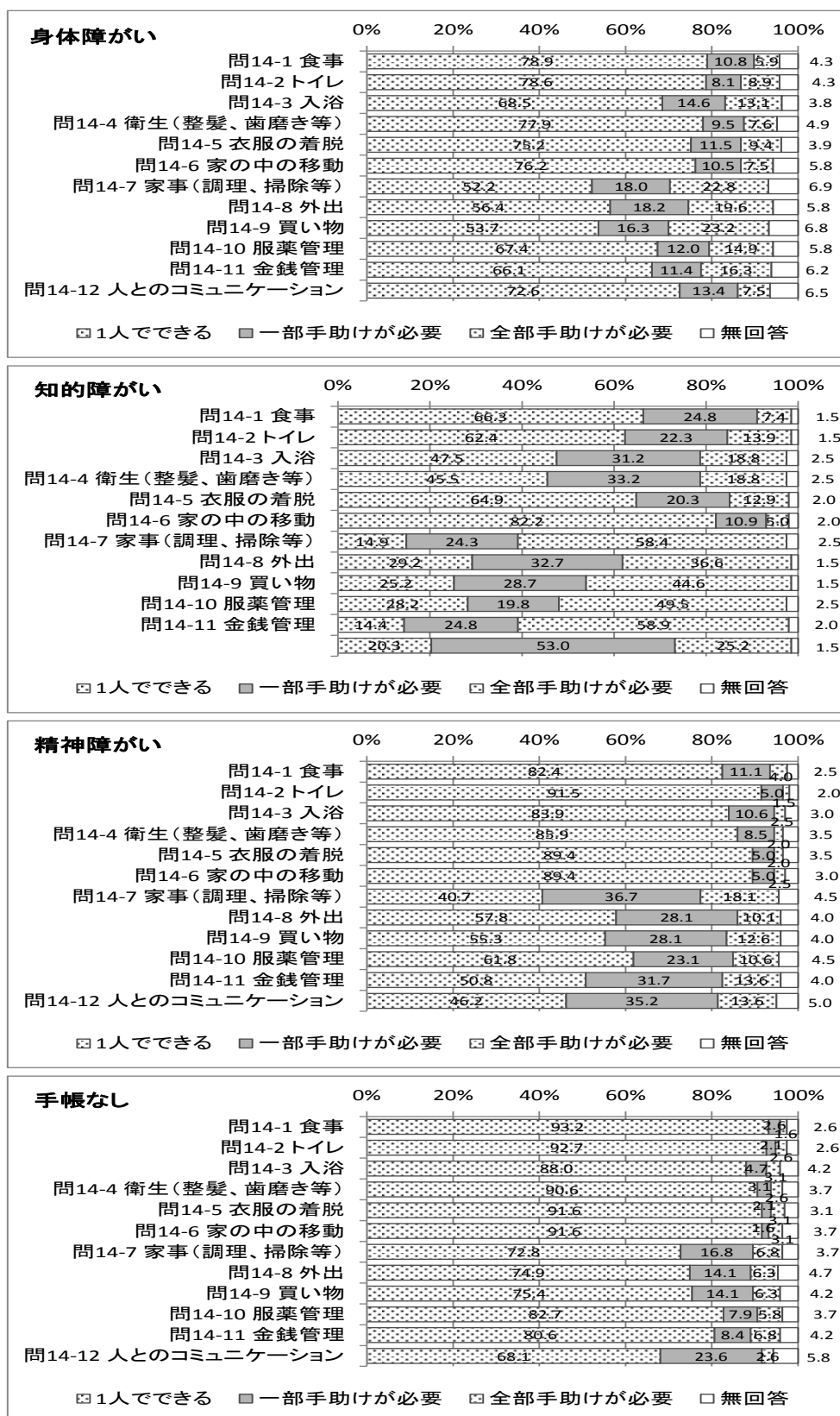
医療機関の受診形態

| | 合計 | 問13-1 医療機関の受診形態 | | | |
|--------------|-----|-----------------|------------|--------------------|-----|
| | | 通院して いる | 入院して いる | 訪問看護 を受けて いる | 無回答 |
| 全体 | 361 | 94.5 | 3.0 | 0.6 | 1.9 |
| 1級 (N=29) | 29 | 75.9 | 17.2 | 0.0 | 6.9 |
| 2級 (N=107) | 107 | 93.5 | 3.7 | 0.9 | 1.9 |
| 3級 (N=60) | 60 | 98.3 | 1.7 | 0.0 | 0.0 |
| 手帳なし (N=165) | 165 | 97.0 | 0.6 | 0.6 | 1.8 |

日常生活

日常生活の自立性

日常生活における自立性では、障がいによって自立性の違いが大きい



介助・支援の悩み

介助・支援の悩み

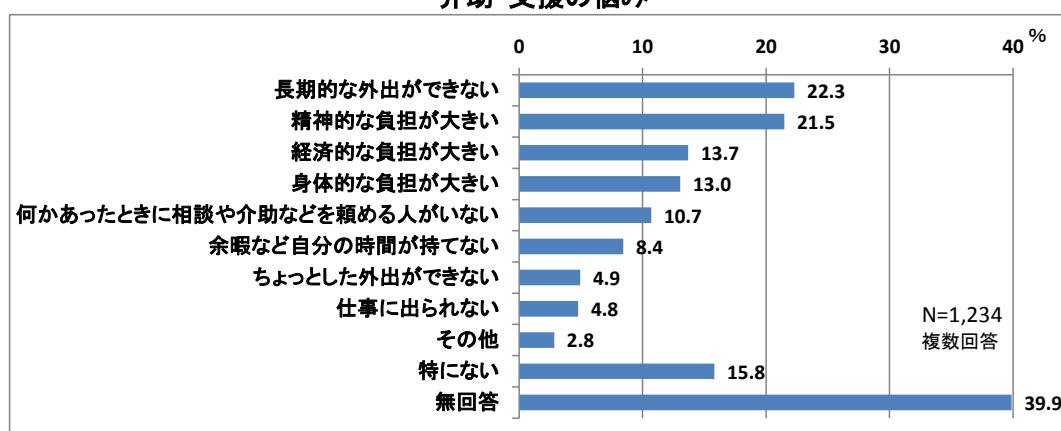
介助・支援の悩みでは、「長期的な外出ができない」22.3%、「精神的な負担が大きい」21.5%を2割以上回答している。

「長期的な外出ができない」では、とくに知的障がいとその割合が大きく、「精神的な負担が大きい」では、知的障がい、精神障がいとその割合が大きくなっている。

そのほか、「身体的な負担が大きい」では身体障がい50歳代以下と知的障がいでの割合がやや大きく、「何かあったときに相談や介助などを頼める人がいない」では、知的障がい、精神障がいでの割合がやや高くなっている。「経済的な負担」は精神障がいとその割合が高い。

介助・支援の悩みは「長期的な外出ができない」、「精神的な負担が大きい」を中心に、多岐にわたっている。

介助・支援の悩み



介助・支援の悩み(障がい種別)

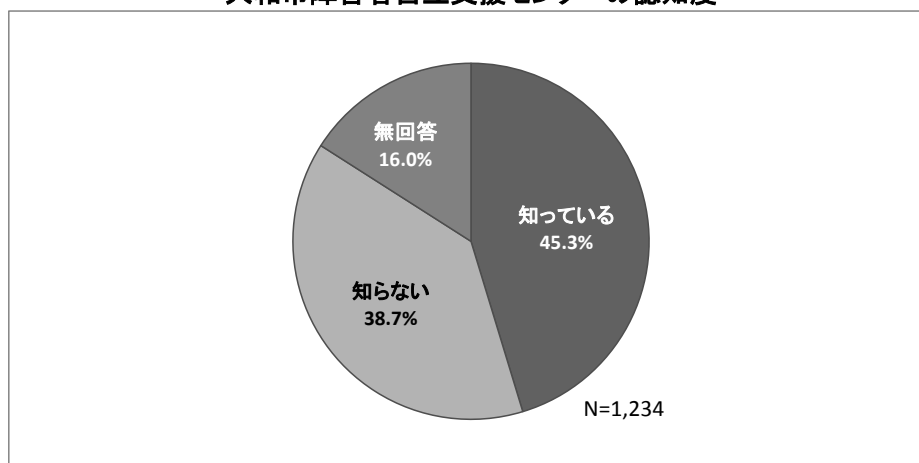
| | 合計 | 問25 介助・支援の悩み | | | | | | | | | | |
|--------------|------|--------------|------------|------------|----------------|--------------------------|----------|---------------|------------|-----|------|------|
| | | 長期的な外出ができない | 精神的な負担が大きい | 身体的な負担が大きい | 余暇など自分の時間が持てない | 何かあったときに相談や介助などを頼める人がいない | 仕事に出られない | ちょっとした外出ができない | 経済的な負担が大きい | その他 | 特にない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 22.3 | 21.5 | 13.0 | 8.4 | 10.7 | 4.8 | 4.9 | 13.7 | 2.8 | 15.8 | 39.9 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 19.4 | 21.2 | 18.8 | 11.2 | 14.1 | 8.8 | 5.9 | 13.5 | 4.7 | 17.1 | 35.9 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 24.1 | 14.9 | 14.5 | 8.2 | 5.4 | 1.8 | 5.0 | 11.1 | 1.6 | 16.1 | 44.3 |
| 知的障がい | 202 | 31.7 | 37.1 | 23.8 | 14.4 | 22.3 | 12.9 | 8.4 | 13.9 | 5.4 | 18.3 | 11.4 |
| 精神障がい | 199 | 24.6 | 31.7 | 10.6 | 7.5 | 18.1 | 4.0 | 4.5 | 22.6 | 2.5 | 11.6 | 37.2 |
| 手帳なし | 191 | 12.6 | 14.1 | 3.7 | 4.2 | 5.2 | 3.7 | 2.1 | 13.6 | 3.1 | 13.1 | 58.1 |

大和市障害者自立支援センター

大和市障害者自立支援センター

大和市障害者自立支援センターの認知度は 45.3%である。
 知的障がい 72.8%、精神障がい 63.8%の認知度が特に高く、身体障がい 60 歳代以上手帳なしの認知度はやや低く、「知らない」割合の方が高い。
 大和市障害者自立支援センターの利用したいサービスでは、「生活相談」32.4%、「就労相談」22.4%、「地域交流」16.8%の順で、全体として、知的障がい、精神障がいでの利用意向が高い。
 大和市障害者自立支援センターは、知的障がい、精神障がいを中心に認知度も高く、生活相談、就労相談等のサービスへの期待が大きい。

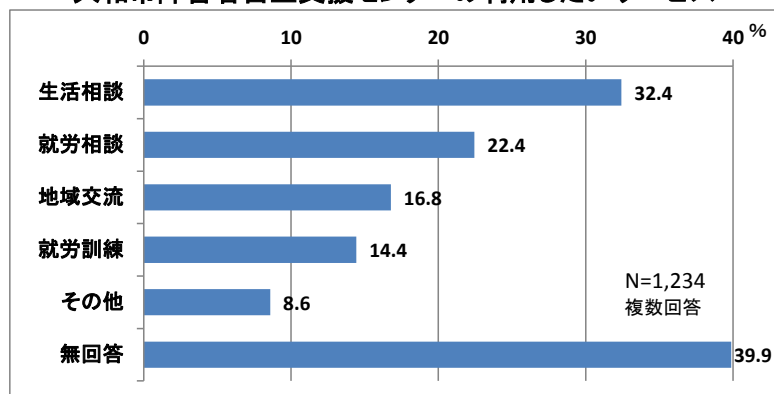
大和市障害者自立支援センターの認知度



大和市障害者自立支援センターの認知度(障がい種別)

| | 合計 | 問40 大和市障害者自立支援センターの認知 | | |
|--------------|------|-----------------------|------|------|
| | | 知っている | 知らない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 45.3 | 38.7 | 16.0 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 47.6 | 41.2 | 11.2 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 30.4 | 43.1 | 26.4 |
| 知的障がい | 202 | 72.8 | 21.3 | 5.9 |
| 精神障がい | 199 | 63.8 | 31.2 | 5.0 |
| 手帳なし | 191 | 42.9 | 47.1 | 9.9 |

大和市障害者自立支援センターの利用したいサービス



大和市障害者自立支援センターの利用したいサービス(障がい種別)

| | 合計 | 問40-1 大和市障害者自立支援センターの利用したいサービス内容 | | | | | |
|---------------|------|----------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 生活相談 | 就労相談 | 就労訓練 | 地域交流 | その他 | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 32.4 | 22.4 | 14.4 | 16.8 | 8.6 | 39.9 |
| 身体障害者手帳-50歳代以 | 170 | 34.1 | 26.5 | 19.4 | 16.5 | 5.9 | 37.6 |
| 身体障害者手帳-60歳代以 | 503 | 24.9 | 6.2 | 2.6 | 13.5 | 8.9 | 54.3 |
| 療育手帳 | 202 | 42.6 | 39.1 | 31.7 | 31.2 | 5.4 | 22.3 |
| 精神障害者保健福祉手帳 | 199 | 44.2 | 39.7 | 21.6 | 15.6 | 14.6 | 19.1 |
| 手帳なし(含無回答) | 191 | 33.0 | 28.8 | 16.8 | 15.7 | 7.3 | 38.2 |

暮らしの満足度

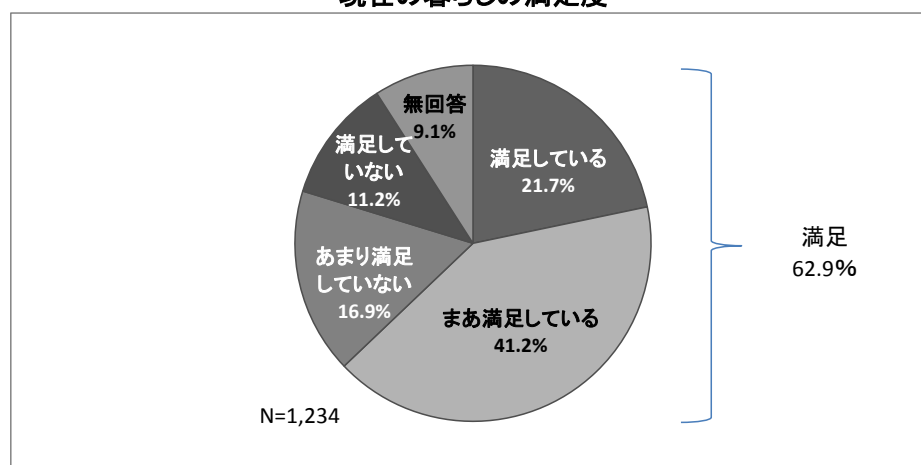
現在の暮らしの満足度

現在の暮らしの満足度は、「満足している」「まあ満足している」を合わせると 62.9%が「満足」と回答している。

いずれの障害でも「まあ満足している」の割合が最も大きいですが、精神障がいでは「あまり満足していない」26.6%、「満足していない」22.6%を合わせると 49.5%と半数が「満足していない」と回答している。

現在の暮らしの満足度は 6 割を超えているが、精神障がいでは満足していないとする割合が高い。

現在の暮らしの満足度



現在の暮らしの満足度(障がい種別)

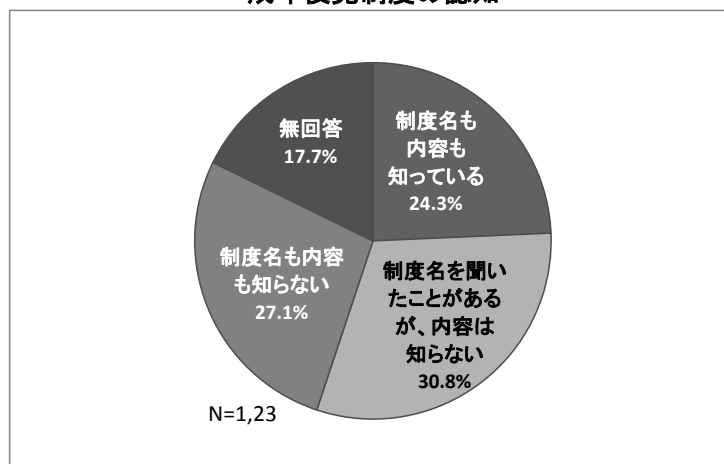
| | 合計 | 問41 現在の暮らしの満足度 | | | | |
|----------------|------|----------------|----------|------------|---------|------|
| | | 満足している | まあ満足している | あまり満足していない | 満足していない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 21.7 | 41.2 | 16.9 | 11.2 | 9.1 |
| 身体障害者手帳-50歳代以下 | 170 | 27.6 | 37.1 | 15.3 | 12.9 | 7.1 |
| 身体障害者手帳-60歳代以上 | 503 | 20.9 | 44.7 | 14.1 | 7.6 | 12.7 |
| 療育手帳 | 202 | 25.2 | 45.5 | 16.8 | 5.9 | 6.4 |
| 精神障害者保健福祉手帳 | 199 | 14.6 | 31.2 | 26.6 | 22.6 | 5.0 |
| 手帳なし (含無回答) | 191 | 19.9 | 41.4 | 17.3 | 14.1 | 7.3 |

成年後見制度

成年後見制度の認知

成年後見制度の認知度は、「制度名も内容も知っている」24.3%、「制度名を聞いたことがあるが、内容は知らない」30.8%、を合わせると55.1%と半数以上が認知している。しかし、身体障がい50歳代以下では29.4%、精神障がいでは34.2%手帳なしでは38.2%が「制度名も内容も知らない」と回答しており、より一層の周知が必要と考えられる。成年後見制度の認知度は半数を超えているが、よく知っているのは4分の1であり、一層の周知が必要である。

成年後見制度の認知



成年後見制度の認知(障がい種別)

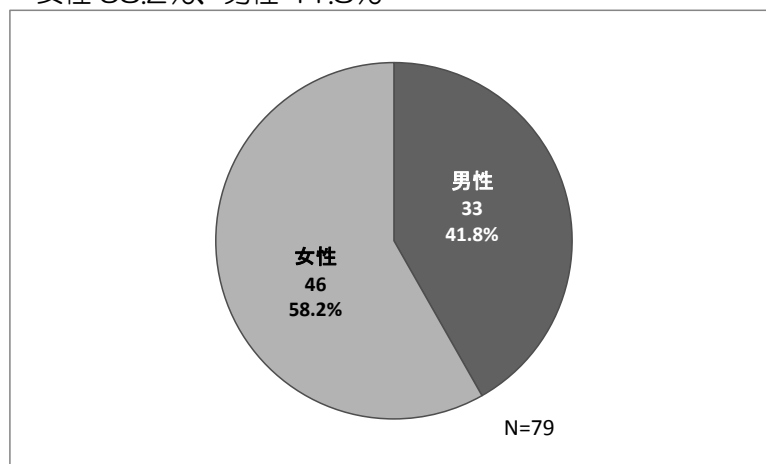
| | 合計 | 問56 成年後見制度の認知 | | | |
|--------------|------|---------------|-----------------------|-------------|------|
| | | 制度名も内容も知っている | 制度名を聞いたことがあるが、内容は知らない | 制度名も内容も知らない | 無回答 |
| 全体 | 1234 | 24.3 | 30.8 | 27.1 | 17.7 |
| 身体障がい-50歳代以下 | 170 | 29.4 | 27.6 | 29.4 | 13.5 |
| 身体障がい-60歳代以上 | 503 | 26.6 | 28.4 | 19.9 | 25.0 |
| 知的障がい | 202 | 29.2 | 34.2 | 26.2 | 10.4 |
| 精神障がい | 199 | 19.1 | 38.7 | 34.2 | 8.0 |
| 手帳なし | 191 | 17.3 | 27.2 | 38.2 | 17.3 |

一般市民アンケート

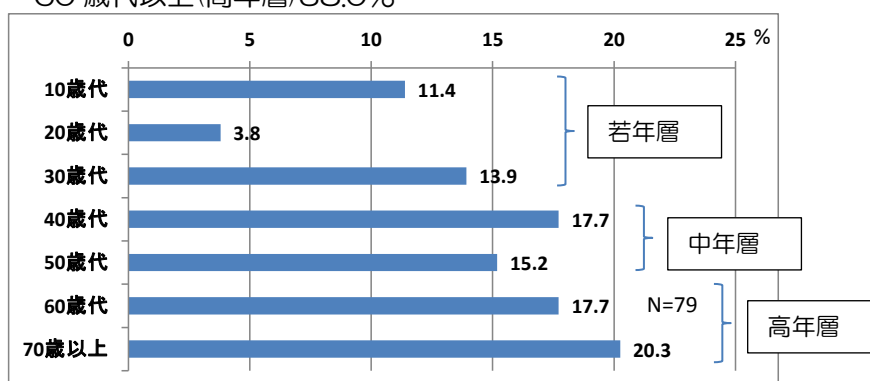
回答数の属性

性別

—女性 58.2%、男性 41.8%



年齢

—10 歳代～30 歳代 (若年層) 29.1%、
40 歳代～50 歳代 (中年層) 32.9%、
60 歳代以上 (高年層) 38.0%

障がい児や障がい者の実態や取組

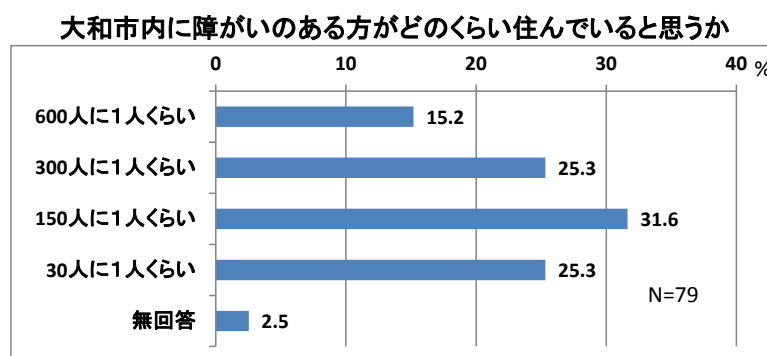
大和市内に障がいのある方がどのくらい住んでいると思うか

「30人に1人くらい」と回答した人は約4分の1であり、多くの人が障がい者はもっと少ないと思っている。

平成26年4月時点の大和市の障がい者数(手帳所有者)は8,466人、総人口232,280人であり、27.4人に1人が障がい者である。

「30人に1人くらい」と回答したのは全体の25.3%に過ぎず、最も多かったのは「150人に1人くらい」の31.6%であった。

女性は「30人に1人くらい」が37.0%と多かったが、男性は9.1%と少なかった。年齢別に見ると、若年層では「300人に1人くらい」が39.1%と多かった。



大和市内に障がいのある方がどのくらい住んでいると思うか(性別・年齢別)

| | 合計 | 問1 大和市内に障がいのある方がどのくらい住んでいると思うか | | | | |
|---------|----|--------------------------------|------------|------------|-----------|-----|
| | | 600人に1人くらい | 300人に1人くらい | 150人に1人くらい | 30人に1人くらい | 無回答 |
| 全体 | 79 | 15.2 | 25.3 | 31.6 | 25.3 | 2.5 |
| 男性 | 33 | 21.2 | 24.2 | 42.4 | 9.1 | 3.0 |
| 女性 | 46 | 10.9 | 26.1 | 23.9 | 37.0 | 2.2 |
| 10歳代~30 | 23 | 4.3 | 39.1 | 30.4 | 26.1 | 0.0 |
| 40歳代~50 | 26 | 19.2 | 19.2 | 34.6 | 26.9 | 0.0 |
| 60歳代以上 | 30 | 20.0 | 20.0 | 30.0 | 23.3 | 6.7 |

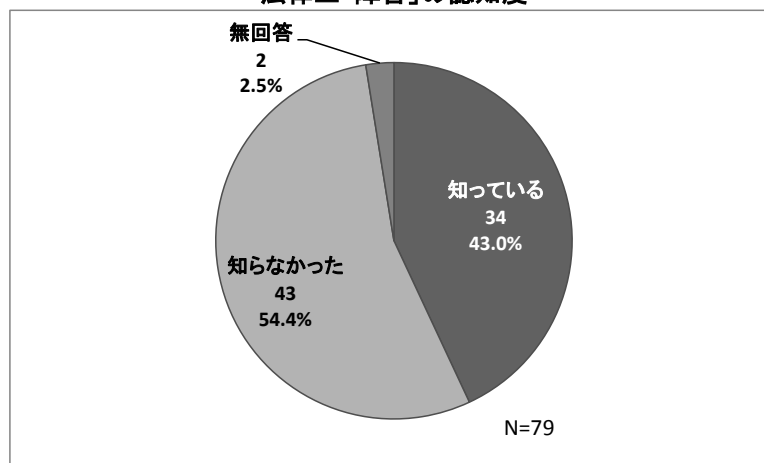
「障がい」の認知

法律上「障害」の認知度は43.0%であり、「知らない」人の方が多かった。

「法律において「障害」とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、治療法が確立されていない疾病のことを言いますが、知っていますか。」の問に対して、「知っている」は43.0%、「知らない」は54.4%で「知らない」人の方が多かった。

年齢別に見ると、若年層では「知っている」52.2%が「知らない」43.5%を上回っているが、ほかの年齢層は「知らない」の方が多い。

法律上「障害」の認知度



法律上「障害」の認知度(性別・年齢別)

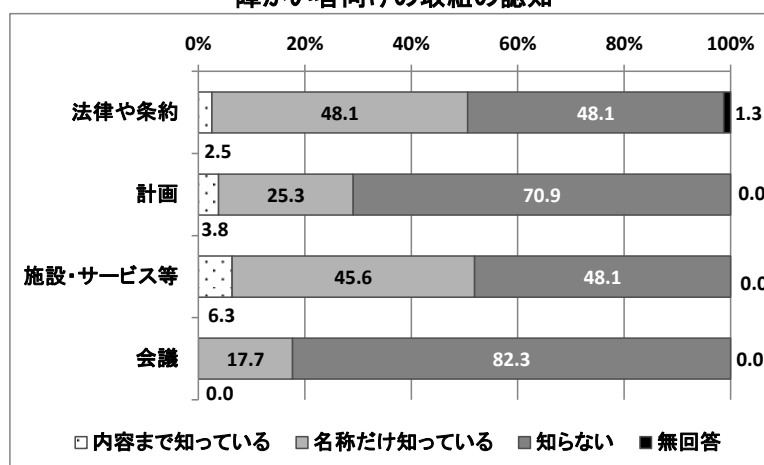
| | 合計 | 問2 法律上の「障害」の認知 | | |
|----------------|----|----------------|--------|-----|
| | | 知っている | 知らなかった | 無回答 |
| 全体 | 79 | 43.0 | 54.4 | 2.5 |
| 男性 | 33 | 42.4 | 57.6 | 0.0 |
| 女性 | 46 | 43.5 | 52.2 | 4.3 |
| 10歳代～30歳代(若年層) | 23 | 52.2 | 43.5 | 4.3 |
| 40歳代～50歳代(中年層) | 26 | 38.5 | 61.5 | 0.0 |
| 60歳代以上(高年層) | 30 | 40.0 | 56.7 | 3.3 |

障がい者向けの取組の認知

障がい者向けの取組の認知度は、「施設・サービス」と「法律や条約」が 5 割、「計画」3 割、「会議」2 割であり、“内容まで知っている”はほとんどいない。

障がい者向けの取組の認知では、“内容まで知っている”の回答は、「施設・サービス」で 6.3%、「計画」で 3.8%、「法律や条約」で 2.5%であり、「会議」に至っては 1 人もいなかった。“名前だけ知っている”を加えた認知度は、「施設・サービス」と「法律や条約」がほぼ 50%であるが、「計画」では 29.1%、「会議」では 17.7%にすぎなかった。

障がい者向けの取組の認知

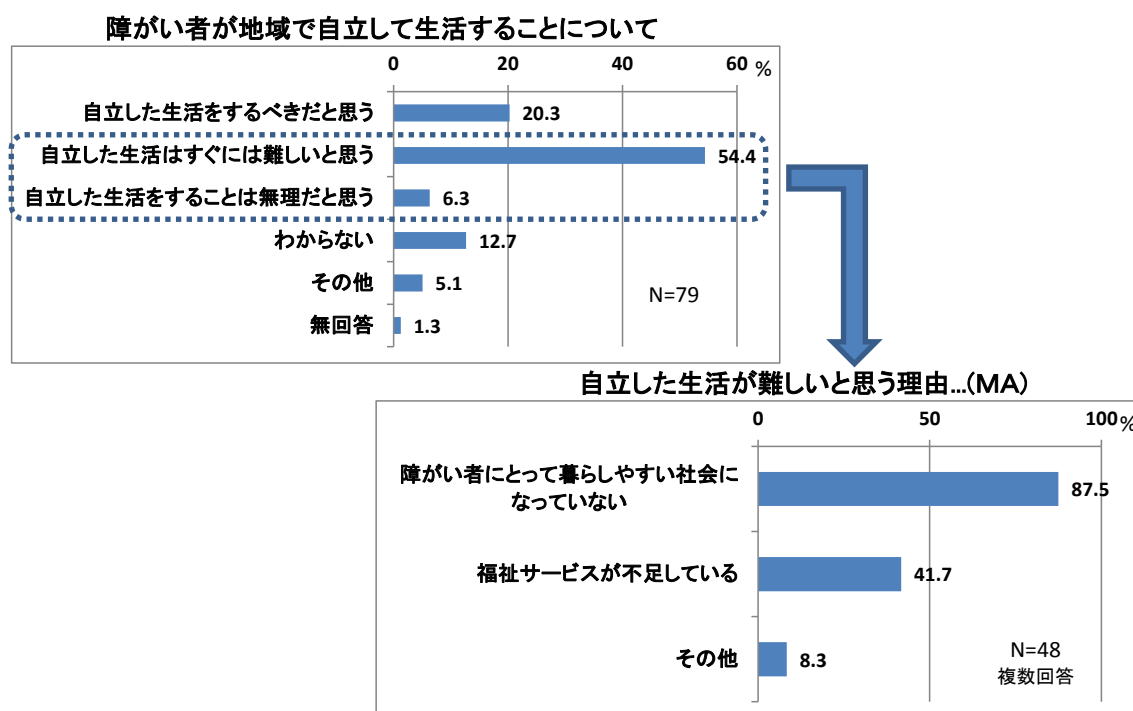


障がい者を対象とした福祉の基本的な考え方 や障がい者との共生（ともに生きる）について

障がい者が地域で自立して生活することについて

障がい者が地域で自立して生活することについては、「障がい者にとって暮らしやすい社会になっていない」という理由で「自立した生活はすぐには難しいと思う」が半数を占める。

障がい者が地域で自立して生活することについての設問では、「自立した生活はすぐには難しいと思う」が54.4%と過半数を占め、「自立した生活をするべきだと思う」20.3%を大きく上回った。「自立した生活をするは無理だと思う」の割合は6.3%と少なく、自立した生活の可能性は認識されている。「自立した生活はすぐには難しいと思う」「自立した生活をするは無理だと思う」に回答した人のその理由は、「障がい者にとって暮らしやすい社会になっていない」が障がい者向け87.5%、「福祉サービスが不足している」が41.7%であった。（複数回答）

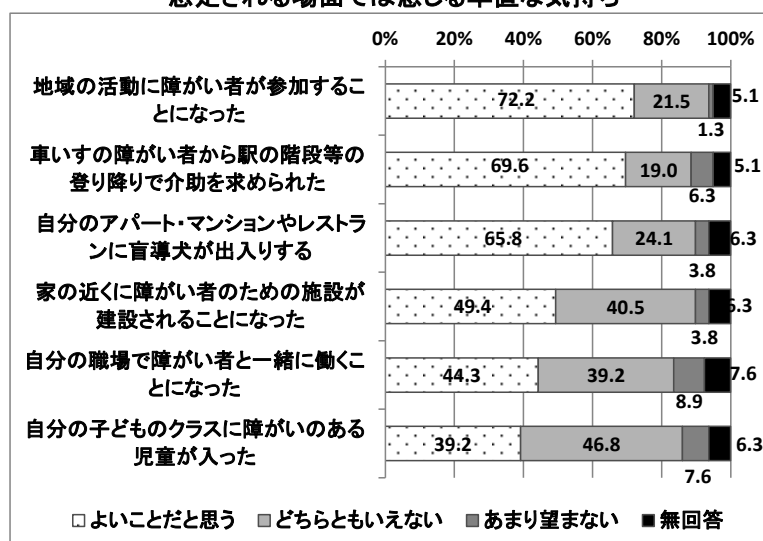


想定される場面では感じる率直な気持ち

いずれの想定場面でも、否定する意見は極めて少なかったが、職場や学校で障がい者と一緒になるなど、個人の生活に深く関わる場面では“よいことだと思う”割合が少なくなっており、躊躇している人が多いことがわかる。

「次のような場面ではあなたはどのように感じますか。率直な気持ちをお答え下さい」の設問では、“よいことだと思う”とする割合が多い順に、「地域の活動に障がい者が参加することになった」72.2%、「車いすの障がい者から駅の階段等の登り降りて介助を求められた」69.6%、「自分のアパート・マンションやレストランに盲導犬が出入りする」65.8%、「家の近くに障がい者のための施設が建設されることになった」49.4%、「自分の職場で障がい者と一緒に働くことになった」44.3%、「自分の子どものクラスに障がいのある児童が入った」39.2%となっており、「自分の子どものクラスに障がいのある児童が入った」では、“どちらともいえない”の割合の方が多くなっている。いずれの場面も“あまりのぞまない”とする割合は1割未満と小さい。家の近くに施設が建設される、職場や学校で障がい者と一緒になるなど、個人の生活に深く関わる場面では“よいことだと思う”割合が少なくなっているように思われる。

想定される場面では感じる率直な気持ち

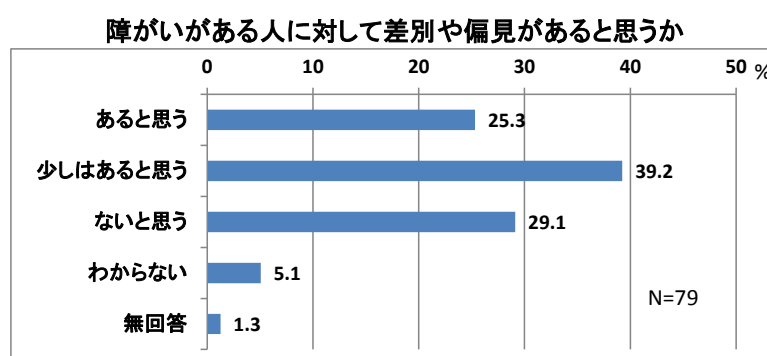


障がいがある人に対して差別や偏見があると思うか

障がいがある人に対して差別や偏見が「ある」（「あると思う」「少しはあると思う」の計）とする割合が64.5%と半数以上が偏見や差別はあると回答している。この傾向は中高年の男性により顕著に表れている。

「障がいがある人に対して差別や偏見があると思うか」の設問では、「無いと思う」は29.1%と全体の3割で、「あると思う」25.3%、「少しはあると思う」39.2%を合わせると64.5%、半数以上が偏見や差別はあると回答している。

男女別に見ると、男性の方が「あると思う」が39.4%と高く、女性の方は「ないと思う」が39.1%と高い。年齢別では、高年層で「ないと思う」が43.3%と高い。



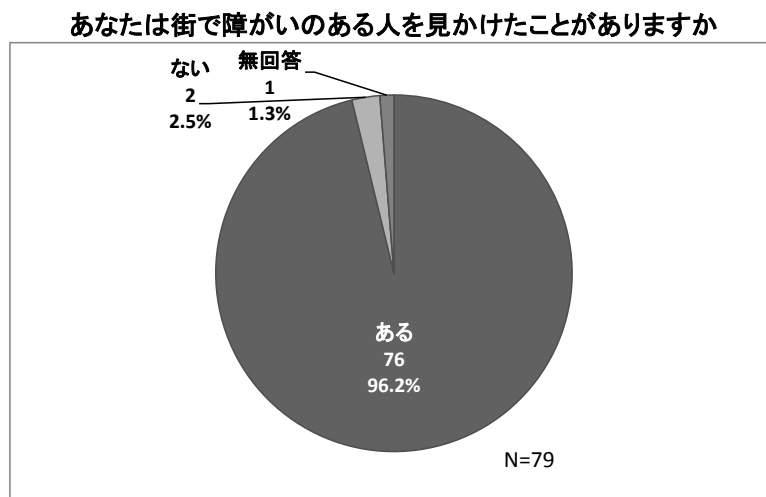
障がいがある人に対して差別や偏見があると思うか(性別・年齢別)

| | 合計 | 問6 障がいがある人に対して差別や偏見があると思うか | | | | |
|----------------|----|----------------------------|----------|-------|-------|-----|
| | | あると思う | 少しはあると思う | ないと思う | わからない | 無回答 |
| 全体 | 79 | 25.3 | 39.2 | 29.1 | 5.1 | 1.3 |
| 男性 | 33 | 39.4 | 39.4 | 15.2 | 6.1 | 0.0 |
| 女性 | 46 | 15.2 | 39.1 | 39.1 | 4.3 | 2.2 |
| 10歳代～30歳代(若年層) | 23 | 26.1 | 39.1 | 26.1 | 4.3 | 4.3 |
| 40歳代～50歳代(中年層) | 26 | 38.5 | 46.2 | 15.4 | 0.0 | 0.0 |
| 60歳代以上(高年層) | 30 | 13.3 | 33.3 | 43.3 | 10.0 | 0.0 |

あなたと障がいのある人との交流等について
あなたは街で障がいのある人を見かけたことがありますか

ほとんどの人が障がい者を街で見かけている

街で障がいのある人を見かけたことが「ある」が96.2%を占め、ほとんどの人が障がい者を街で見かけている。

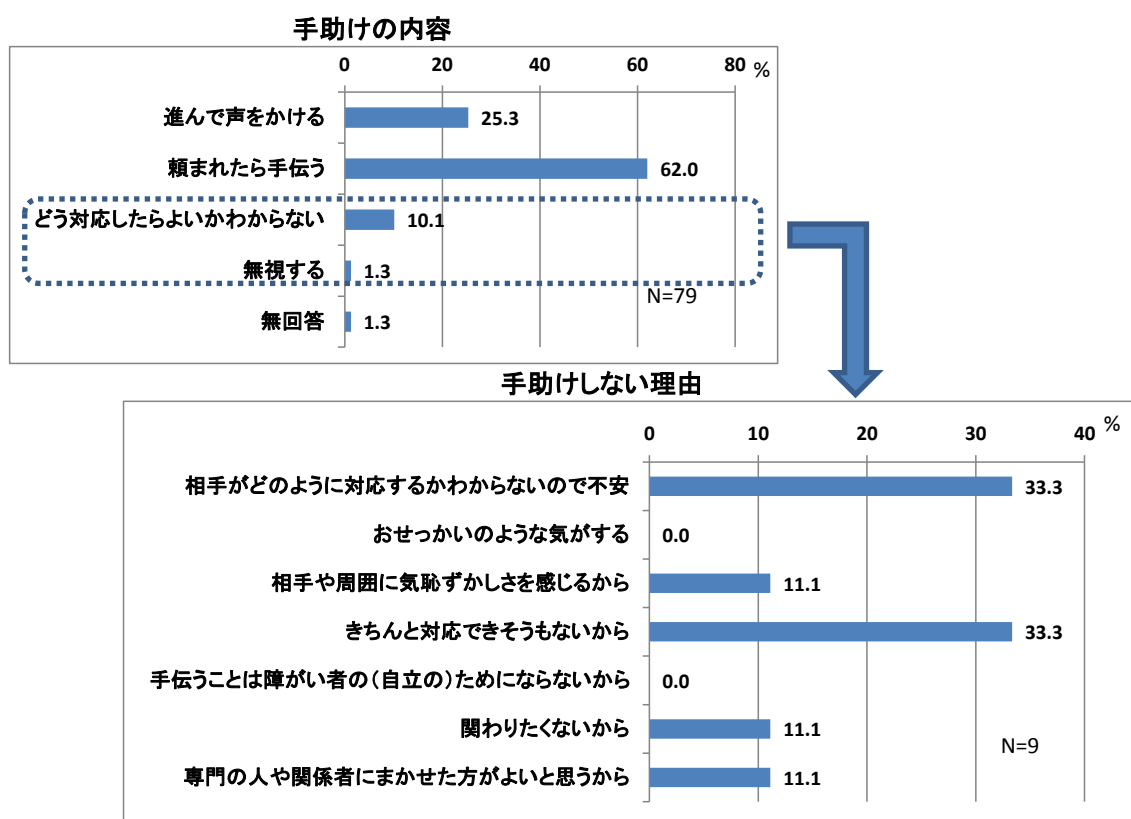


街で見かけた障がいのある人が手助けを必要としていたら、どのような対応をしますか

街で見かけた障がいのある人が手助けを必要としていたら、87.3%の人が手助けする。
この傾向は女性、若年層、中年層に顕著である

街で見かけた障がいのある人が手助けを必要としていたら、「頼まれたら手伝う」62.0%、「進んで声をかける」25.3%であった。「どう対応したよいかわからない」10.1%、「無視する」1.3%であった。「どう対応したよいかわからない」「無視する」と回答した約1割の人の主な理由は、「相手がどのように対応するかわからないので不安」「きちんと対応できそうもないから」であり、「関わりたくないから」は1人(11.1%)であった。街で障がいのある人を見かけたことが「ある」が96.2%を占め、ほとんどの人が障がい者を街で見かけている。

男女別にみると、女性は「進んで声をかける」割合が39.1%と高く、男性は「そう対応したらよいかわからない」の割合が15.2%と高くなっている。年齢別では高年層に比べて、中年層、若年層の方が「進んで声をかける」割合が高い。



手助けの内容(性別・年齢別)

| | 合計 | 問 8 街で見かけた障がいのある人が手助けを必要としていた時の対応 | | | | |
|----------------|----|-----------------------------------|----------|-----------------|------|-----|
| | | 進んで声をかける | 頼まれたら手伝う | どう対応したらよいかわからない | 無視する | 無回答 |
| 全体 | 79 | 25.3 | 62.0 | 10.1 | 1.3 | 1.3 |
| 男性 | 33 | 6.1 | 75.8 | 15.2 | 3.0 | 0.0 |
| 女性 | 46 | 39.1 | 52.2 | 6.5 | 0.0 | 2.2 |
| 10歳代～30歳代(若年層) | 23 | 30.4 | 65.2 | 0.0 | 4.3 | 0.0 |
| 40歳代～50歳代(中年層) | 26 | 30.8 | 57.7 | 11.5 | 0.0 | 0.0 |
| 60歳代以上(高年層) | 30 | 16.7 | 63.3 | 16.7 | 0.0 | 3.3 |

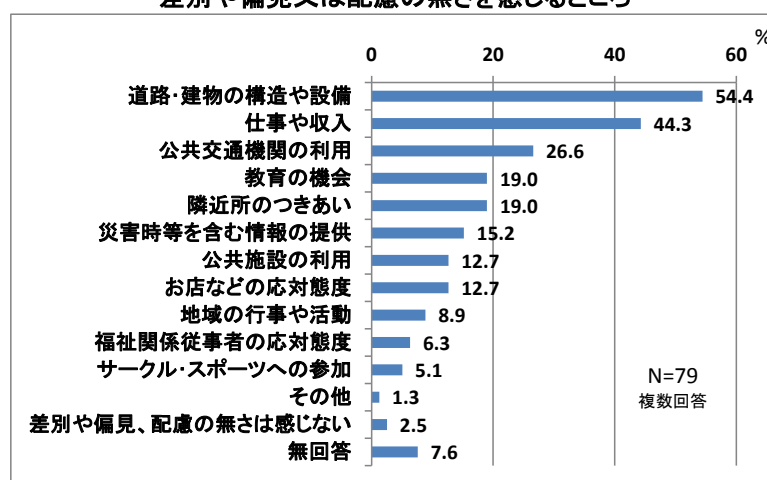
障がいのある人に対する地域社会

障がい者に対して、今の地域社会のなかで、差別や偏見又は配慮の無さを感じるところがありますか

今の地域社会のなかで、差別や偏見又は配慮の無さを感じる場所は、「バリアフリー」と「就業機会」の認識が強い

「障がい者に対して、今の地域社会のなかで、差別や偏見又は配慮の無さを感じる場所がありますか」の設問では、「道路・建物の構造や設備」54.4%、「仕事や収入」44.3%の割合が高く、次いで「公共交通機関の利用」が26.6%である。バリアフリーと就業機会に欠けているという社会認識が強く表れていると考えられる。

差別や偏見又は配慮の無さを感じる場所



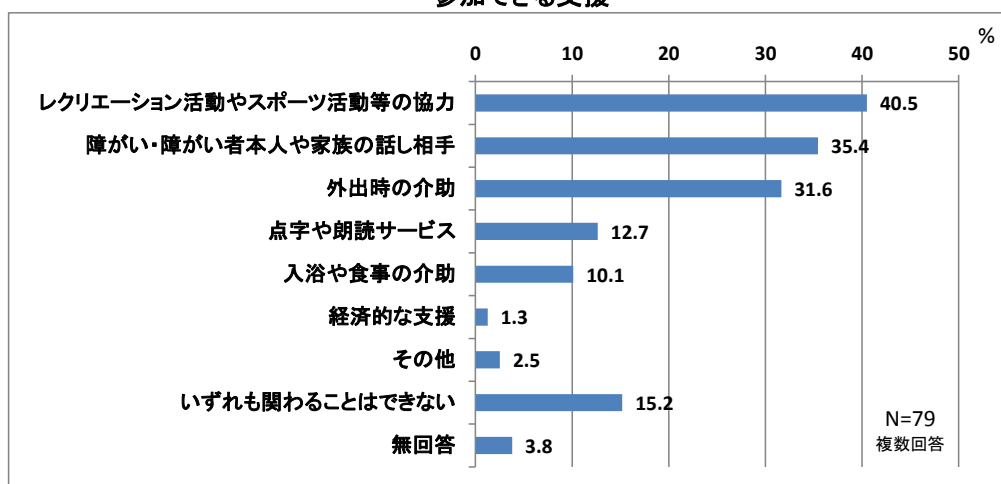
障がいのある人に対する支援について

あなたはどのような支援に参加できると思いますか

障がい者を支援するために参加できる支援としては、「レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力」「障がい・障がい者本人や家族の話し相手」「外出時の介助」が上位 3 項目

障がい者を支援するために参加できる支援としては、「レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力」40.5%、「障がい・障がい者本人や家族の話し相手」35.4%、「外出時の介助」31.6%が上位 3 項目である。「レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力」では男性、「障がい・障がい者本人や家族の話し相手」では女性の割合が高くなっている。このほか、「入浴や食事の介助」では男性、「点字や朗読サービス」では女性の割合がやや高くなっており、男性は「動」の活動、女性は「静」の活動にシフトしている傾向がみられる。

参加できる支援



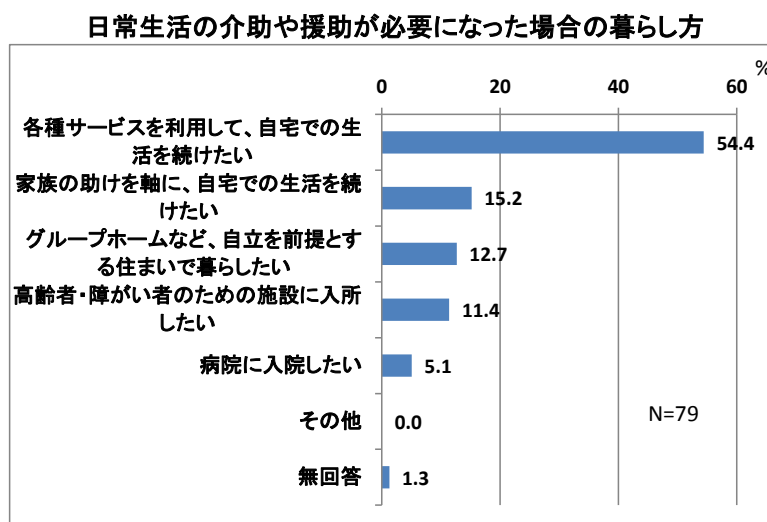
参加できる支援(性別・年齢別)

| | 合計 | 問10 参加できると思う支援 | | | | | | | | |
|----------------|----|--------------------|--------|-----------------------|-----------|----------|--------|-----|----------------|------|
| | | 障がい・障がい者本人や家族の話し相手 | 外出時の介助 | レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力 | 点字や朗読サービス | 入浴や食事の介助 | 経済的な支援 | その他 | いずれも関わることはできない | 無回答 |
| 全体 | 79 | 35.4 | 31.6 | 40.5 | 12.7 | 10.1 | 1.3 | 2.5 | 15.2 | 3.8 |
| 男性 | 33 | 24.2 | 24.2 | 45.5 | 6.1 | 12.1 | 0.0 | 3.0 | 18.2 | 0.0 |
| 女性 | 46 | 43.5 | 37.0 | 37.0 | 17.4 | 8.7 | 2.2 | 2.2 | 13.0 | 6.5 |
| 10歳代～30歳代(若年層) | 23 | 43.5 | 39.1 | 43.5 | 4.3 | 17.4 | 4.3 | 0.0 | 13.0 | 0.0 |
| 40歳代～50歳代(中年層) | 26 | 38.5 | 38.5 | 46.2 | 30.8 | 7.7 | 0.0 | 7.7 | 7.7 | 0.0 |
| 60歳代以上(高年層) | 30 | 26.7 | 20.0 | 33.3 | 3.3 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 23.3 | 10.0 |

もし、あなたが将来、加齢や障がいにより、日常生活の介助や援助が必要になった場合、どのように暮らしたいですか

もし、自分が将来、加齢や障がいにより、日常生活の介助や援助が必要になった場合、7割の人は「自宅で生活を続けたい」と考えている。

「もし、あなたが将来、加齢や障がいにより、日常生活の介助や援助が必要になった場合、どのように暮らしたいですか」の設問では、半数以上が「各種サービスを利用して、自宅での生活を続けたい」と回答している。「家族の助けを軸に、自宅での生活を続けたい」15.2%を合わせると、7割の人が在宅での生活をイメージしていることがわかる。

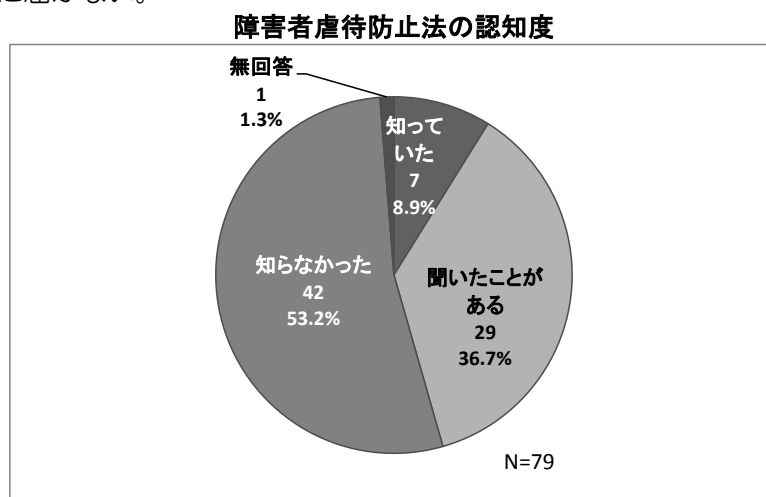


障がいのある人の権利擁護について

あなたは「障害者虐待防止法」を知っていましたか

障害者虐待防止法の認知度は、1割未満（8.9%）、「聞いたことがある」を含めても半数に満たない

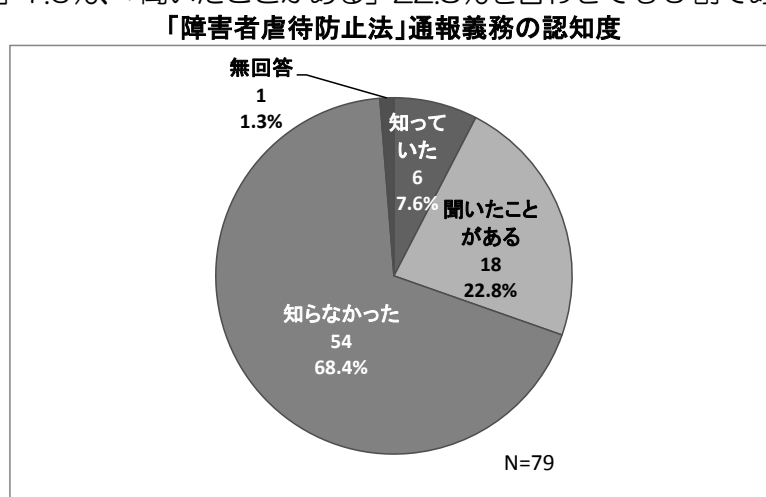
障害者虐待防止法の認知度は、「知っていた」8.9%、「聞いたことがある」36.7%を合わせても半数に届かない。



「障害者虐待防止法」の通報義務を知っていましたか

「障害者虐待防止法」の通報義務の認知度は、1割未満（7.6%）、「聞いたことがある」を含めても3割

「障害者虐待防止法」の通報義務の認知度は、「障害者虐待防止法」以上に認知後は低く、「知っていた」7.6%、「聞いたことがある」22.8%を合わせても3割である。

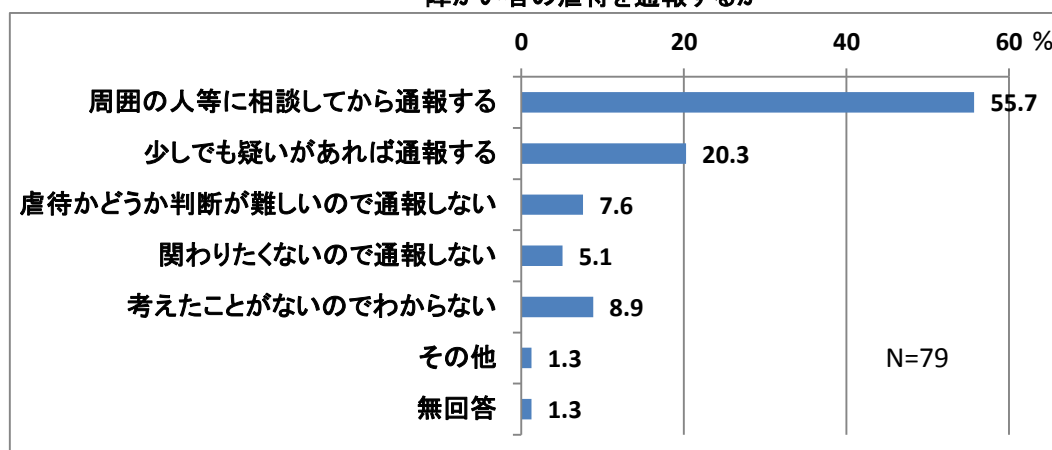


あなたは、自宅の近所や職場等で障がいのある人が虐待を受けたり、虐待をされている疑いに気づいたとき、通報しますか。

「障がいのある人が虐待を受けたり、虐待をされている疑いに気づいたとき」、「通報する」人は76%である。「通報しない」人は12.7%みられるが、ほとんど男性である。

「障がいのある人が虐待を受けたり、虐待をされている疑いに気づいたとき、通報しますか」の設問では、「周囲の人等に相談してから通報する」55.7%、「少しでも疑いがあれば通報する」20.3%で、合わせて「通報する」とする人が76%であった。一方、「かかわりたくないので通報しない」とする人が5.1%みられた。男女別に見ると、通報しないとす人は女性にはほとんどみられず、男性に見られる。

障がい者の虐待を通報するか



| | 合計 | 問14 虐待をされている疑いに気づいたとき通報するか | | | | | | |
|----------------|----|----------------------------|------------------|---------------------|----------------|-----------------|-----|-----|
| | | 少しでも疑いがあれば通報する | 周囲の人等に相談してから通報する | 虐待かどうか判断が難しいので通報しない | 関わりたくないので通報しない | 考えたことがないのでわからない | その他 | 無回答 |
| 全体 | 79 | 20.3 | 55.7 | 7.6 | 5.1 | 8.9 | 1.3 | 1.3 |
| 男性 | 33 | 24.2 | 39.4 | 18.2 | 9.1 | 6.1 | 3.0 | 0.0 |
| 女性 | 46 | 17.4 | 67.4 | 0.0 | 2.2 | 10.9 | 0.0 | 2.2 |
| 10歳代～30歳代(若年層) | 23 | 21.7 | 47.8 | 0.0 | 13.0 | 17.4 | 0.0 | 0.0 |
| 40歳代～50歳代(中年層) | 26 | 34.6 | 53.8 | 3.8 | 3.8 | 0.0 | 3.8 | 0.0 |
| 60歳代以上(高年層) | 30 | 6.7 | 63.3 | 16.7 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 3.3 |

| | 合計 | 問14 虐待をされている疑いに気づいたとき通報するか | | | | | | | |
|-------------------------------|----------|----------------------------|------------------|---------------------|----------------|-----------------|------|-----|-------|
| | | 少しでも疑いがあれば通報する | 周囲の人等に相談してから通報する | 虐待かどうか判断が難しいので通報しない | 関わりたくないので通報しない | 考えたことがないのでわからない | その他 | 無回答 | |
| 全体 | 79 | 20.3 | 55.7 | 7.6 | 5.1 | 8.9 | 1.3 | 1.3 | |
| 問13 「大和市障害者虐待防止センター」への通報義務の認知 | 知っていた | 6 | 33.3 | 50.0 | 0.0 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 聞いたことがある | 18 | 11.1 | 77.8 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 知らなかった | 54 | 22.2 | 50.0 | 7.4 | 5.6 | 13.0 | 1.9 | 0.0 |
| | 無回答 | 1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |